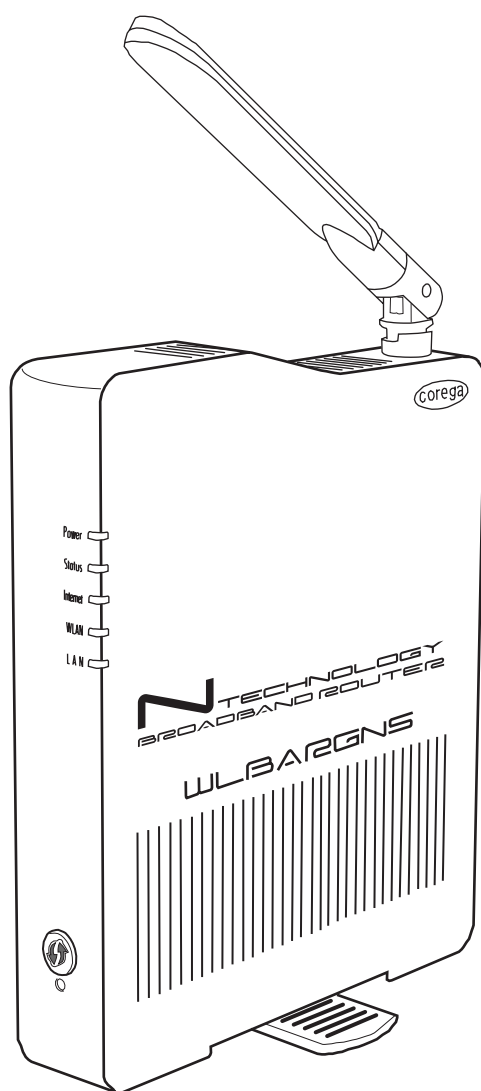
詳細設定ガイド

無線ブロードバンドルータ

CG-WLBARGNS

Y613-15394-01 Rev.B

本書の読み方

●記号について

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。 必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-WLBARGNS を示します。
「　」－「　」－「　」	－（ハイフン）は、「　」で囲まれた項目やボタンを順番に選択することを示します。
[　　　]	[　　　] で囲んである文字は画面上のボタンを 示します。 例：　→ [OK]
Windows Vista	Microsoft® Windows Vista™ Home Basic 、 Microsoft® Windows Vista™ Home Premium、 Microsoft® Windows Vista™ Business および Microsoft® Windows Vista™ Ultimate
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system
Windows 98SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

※本書では、複数の OS を「Windows Vista/XP」のように併記する場合があります。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目次

PART 1

こんなときはこの設定

このPARTでは、本商品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。これらはすべてパソコンがすでにネットワークに接続済みの状態であることを前提とした説明となりますので、まだ接続していない場合は、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。

設定画面を表示するには

本商品の設定画面を表示するにはWebブラウザが必要です。また、設定時には本商品に接続されているパソコンのうち1台から設定作業を行います。Webブラウザには本商品の推奨ブラウザをご利用ください。そのほかのWebブラウザでは、正常に設定が行えない場合があります。

・本商品を設定する場合には、本商品と設定用パソコンのみを接続して設定することをお勧めします。
・設定用パソコンでウィルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。

1　本商品に接続したパソコンで、推奨ブラウザを起動します。

メモ **このとき手順3の画面が表示された場合は、そのまま手順3へお進みください。**

2　アドレス欄に「192.168.1.1」を入力し、Enterキーを押します。

メモ **ルータ機能が「無効」に設定されている場合や、本商品のLAN側のアドレスが変更されている場合は、変更後のIPアドレスを入力してください。また、WindowsのInternet Explorerでお気に入りに登録している場合は、お気に入りの「CG-WLBARGNS」をクリックします。**

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名に「root」、パスワードは空欄のまま［ログイン］をクリックします。

メモ **工場出荷時の設定の場合で説明しています。「本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したいときは」（P.35）で変更した場合は、変更後の値を入力してください。**

4　設定画面が表示されます。

以上で設定画面の表示は完了です。

無線LANセキュリティを設定するには

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されるおそれがあります。本商品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

セキュリティ設定は、通信相手の機器も同じセキュリティ機能を搭載している必要があります。設定の前に設定可能なセキュリティ機能をご確認ください。

●本商品で設定できるセキュリティ機能

■SSID（Service Set IDentifier）

無線LANに接続する機器を識別するネットワークグループ名です。ESSIDと呼ばれることもあります。同じSSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のSSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

工場出荷時の状態では、本体側面の「ネットワーク名（SSID/MAC）」に記載された値となります。この値は、機体ごとに異なります。

■ステルスAP

本商品のSSIDを無線LANアダプタから行う接続検索に表示されないようにすることができます。これにより、外部から不正侵入される危険が減少します。

本商品と同じSSIDを設定している無線LANアダプタからは、本商品のSSIDを確認することができます。

■アクセス制限

本商品に無線LANでアクセスすることができる無線LANアダプタをMACアドレスで制限します。本商品にMACアドレスが登録されていない無線LANアダプタは本商品に接続できなくなります。

■暗号化

無線LAN通信の通信内容を傍受されないように暗号化するセキュリティ機能です。

○WEP（Wired Equivalent Privacy）

通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。６４Ｂｉｔ、１２８Ｂｉｔの２種類があり、ASCII文字（半角英数記号）やHEX（16進数：０～９、ａ～ｆ）を入力し暗号キーを作成します。

○WPA（Wi-Fi Protected Access）

通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わるTKIPを採用しており、WEPよりも解読されにくくなります。家庭で使用する「WPA-PSK（Personal）」の設定ができます。

○ WPA2（Wi-Fi Protected Access 2）
WPA2は、Wi-Fiアライアンスが2004年9月に発表したWPAの新しい規格です。米標準技術局（NICT）が定めた暗号化標準の「AES」を採用しており、128～152Bitの可変調キーを利用しての強力な暗号化が可能です。そのほかの仕様についてはWPAとほとんど変わらないため、WPAとWPA2との混在した環境で利用できます。

工場出荷時の状態では、WPA/WPA2-PSKがあらかじめ設定されています。

■ WPS（Wi-Fi Protected Setup）
Wi-Fiアライアンスが2007年1月より認定を開始した規格です。プッシュボタンを押す、PIN（Personal Identification Number）コードを入力するどちらかの方法で接続を行い、無線LANアダプタをアクセスポイントに登録してSSIDとWPA2のセキュリティの設定を完了させます。接続方式は、付属の「お使いの手引き」または無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

●SSIDを設定する

SSIDを設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b設定」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「ネットワーク名(SSID)」に設定したい文字列を半角英数および半角記号で入力します。

半角英数および半角記号で最大32文字まで入力できます。

②[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

4　本商品に設定したSSIDと同じ文字列を、接続する無線LANアダプタに設定します。

無線LANアダプタのSSIDの設定については、ご使用の無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上でSSIDの設定は完了です。

●ステルスAPを設定する

ステルス AP を設定すると、本商品の SSID を無線 LAN アダプタから検索できなくなります。ステルス AP を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b 設定」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「ステルスAP」を「有効」にします。

②[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上でステルス AP の設定は完了です。

●アクセス制限を設定する

本商品に接続できる無線LANアダプタを、MACアドレスで制限することができます。アクセス制限を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「アクセス制限」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「MACアドレスフィルタリング」を「有効」にします。

②下に表示されるクライアントリストのうちで、アクセスを許可したい無線LANアダプタを搭載したパソコンにチェックを付けます。

メモ　**許可したい無線LANアダプタを搭載したパソコンがクライアントリストに表示されない場合は、無線LANアダプタのMACアドレスを手動で登録してください。設定項目の詳細については「アクセス制限」（P.80）をご覧ください。**

③[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上でアクセス制限の設定は完了です。

●暗号化を設定する

無線LANの通信内容を暗号化して、傍受されても内容を解析されにくくすることができます。暗号化を設定するには、次の手順を行います。

・本商品に暗号化を設定した場合、本商品に接続する無線LANアダプタにも同じ暗号化を設定する必要があります。

・WEP と WPA または WPA2 との併用はできません。

■ WEP を設定する

WEP を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b セキュリティ設定」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「認証方式」から「Open System」または「Shared Key」を選択します。

②「暗号方式」から「WEP」を選択します。

③「暗号化」から「64Bit-16進数(0-9/a-f)10桁」、「128Bit-16進数(0-9/a-f)26桁」、「64Bit-ASCII(半角英数記号)5文字」、「128Bit-ASCII(半角英数記号)13文字」のいずれかを選択します。

ASCII で入力できる半角英数記号および半角記号は、0 ～ 9、a ～ z、!” #$%&’ ()*+.-,/:;<>?@[¥]^_{|}です。

④キー1～キー4に手順3で選択した文字数で任意の文字列を入力し、そのうちの1つを選択します。

「128Bit」を選択した場合は、キー 1 のみ使用することができます。

⑤[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

4　本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。

無線 LAN アダプタの暗号化の設定は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

以上で WEP の設定は完了です。

■ WPA-PSK、WPA2-PSK を設定する

WPA-PSK、WPA2-PSK を設定するには、次の手順を行います。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「LAN 側設定」－「無線アクセスポイント設定」－「802.11g/b セキュリティ設定」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「認証方式」から「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPA/WPA2-PSK」のいずれかを選択します。

②「暗号方式」から「自動(AES/TKIP)」、「AES」、「TKIP」のいずれかを選択します。

メモ **WAP2-PSK の暗号化は「AES」のみとなります。**

③WPA共有キーの「ASCII文字(8～63文字)」を選択し、入力欄に半角英数字および半角記号で8～63文字の任意の文字列を入力します。

メモ **ASCII で入力できる半角英数記号および半角記号は、0 ～ 9、a ～ z、!” #$%&’ ()*+.-,/:;<>?@[¥]^_{|}です。**

④[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

4　本商品に設定した暗号化の設定と同じ設定を、接続する無線 LAN アダプタに設定します。

メモ **無線 LAN アダプタの暗号化の設定は、お使いの無線 LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。**

以上で WPA-PSK、WPA2-PSK の設定は完了です。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームは、ゲームサーバとデータの送受信を行う特定のポートを利用するため、本商品にUPnP設定やDMZ設定などを行う必要があります。

お使いの回線やプロバイダによっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますのでご注意ください。

●UPnPに対応しているネットワークゲームの場合

本商品はUPnPに対応していますので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば自動的に本商品の設定が行われます。

UPnP（ユニバーサル プラグ アンド プレイ）機能は Windows Vista/XP で使用できます。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「UPnPを使用する」から「有効」を選択します。

②[設定] をクリックします。

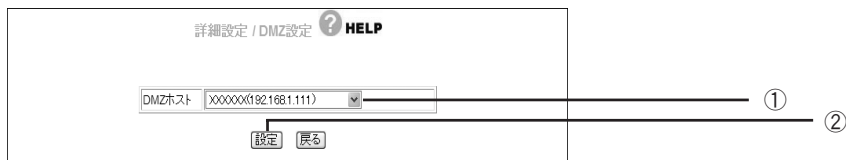
3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

WindowsのUPnPに関するセキュリティの脆弱性が発見されています。本商品のUPnPを設定する前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法はMicrosoftにお問い合わせください。

以上で設定は完了です。

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームの場合は、次の手順で設定します。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」（P.69）でパソコンを手動で登録してください。

②［設定］をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ 機能の対象になっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

以上で設定は完了です。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

本商品に接続したパソコンで音声チャットやビデオチャットなどリアルタイムで送受信するソフトウエアを使用する場合はUPnP機能またはDMZ機能を使用します。ここでは代表的なソフトとして、Windows Live Messenger、MSN Messenger、NetMeeting を利用する場合を説明しています。

Windows Live Messenger、MSN Messenger、Net Meeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。

工場出荷時の状態では、UPnP 機能は有効、DMZ 機能は無効になっています。

●Windows Live Messegner

Windows Live Messengerを使用する場合はUPnP機能を有効にします。次の手順で設定してください。

Windows Live Messenger は Windows Vista/XP（SP2）に対応しています。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「UPnPを使用する」から「有効」を選択します。

②[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は完了です。

●MSN Messenger(Ver.7.0以降)

MSN Messenger を使用する場合は、お使いの環境によって UPnP 機能または DMZ 機能を使用します。

■ Windows XP（ SP1）で使う

Windows XP（SP1）で MSN Messenger を使用する場合は、UPnP 機能を使用します。次の手順で設定します。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「UPnP」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「UPnPを使用する」から「有効」を選択します。

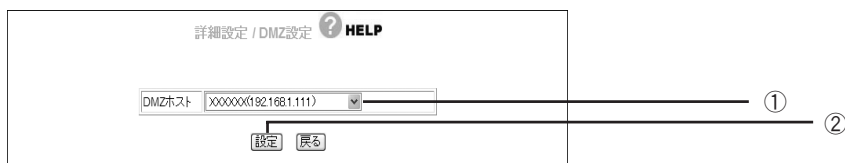
②[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

MSN Mesenger は Ver.7.5 で動作確認をしております。

以上で設定は完了です。

■ Windows 2000/ME/98SE で使う

Windows 2000/ME/98SE では DMZ 機能を設定します。次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」（P.69）でパソコンを手動で登録してください。

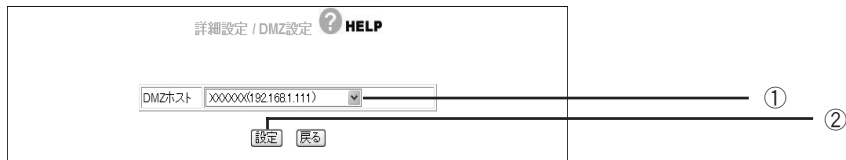
②[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

以上で設定は完了です。

●Net Meeting

Net Meeting を使用するには DMZ 機能を設定します。次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「DMZ」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「DMZホスト」から使用するパソコンを選択します。

「DMZ ホスト」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」（P.69）でパソコンを手動で登録してください。

②［設定］をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

以上で設定は完了です。

ポートを開放するには

●バーチャル・サーバ(ポート開放)を使用する

バーチャル・サーバ機能を利用してポートを開放し、外部にサーバを公開することができます。公開するには次の手順で設定してください。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「詳細設定」－「バーチャル・サーバ（ポート開放）」の順に選択します。

2　次のように設定します。

①「接続先」からサーバにするパソコンを選択します。

・「接続先」に設定したいパソコンが表示されない場合は、「PC データベース」（P.69）でパソコンを手動で登録してください。
・設定するパソコンが IP 自動取得の場合は IP 固定に変更されます。

②公開するサーバに合わせて「サービス」を設定します。

・「ポート範囲」および「プロトコル」は、「サービス」で「ユーザ定義」を選択した場合に設定します。
・本書では例として Web サーバを公開する設定をしています。

③「備考」に任意の名前を入力します（本書では例として「WEBサーバ」を入力します）。

④［登録］をクリックします。

3　設定画面更新後に下に表示されるバーチャル・サーバリストに設定した内容が登録されたことを確認します。

4　画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は完了です。

外部にネットワークカメラ（カメラサーバ）の映像を公開するには

本商品にコレガ製ネットワークカメラを接続して、撮影した映像をインターネット上に配信することができます。その場合は、「PCデータベース」（P.69）、「バーチャル・サーバ」（P.17、83）、「ダイナミックDNS」（P.24、66）などの設定を行う必要があります。

詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガホームページ（http://corega.jp/）から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください（2008年1月現在）。

URL：http://corega.jp/product/navi/ddns/

マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには

●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

マルチ PPPoE でフレッツ・スクウェアの設定を行うと、通常のプロバイダと「フレッツ・スクウェア」へ同時に接続することができます。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「簡単設定」を選択します。

2　[次へ] をクリックします。

3　「手動」を選択し、[次へ] をクリックします。

4　「PPPoE（FLET' S シリーズ）」を選択し、[次へ] をクリックします。

5 「接続ユーザ名」、「接続パスワード」、「パスワードの確認」を入力し、[次へ] をクリックします。

6 「東日本」または「西日本」を選択して [次へ] をクリックします。

7 [保存] をクリックし、接続テストを行います。

8 接続テストが正常に行われたことを確認し、[終了] をクリックします。

以上で設定は完了です。

複数固定 IP サービスを利用するには

各プロバイダがPPPoE回線で提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本商品および本商品に接続するパソコンに設定して、サーバの公開などを行うことができます。

●Unnumbered IP

本商品に、グローバルIPのパソコンのみを接続する場合に設定します。

メモ

ここでは以下の設定を例に説明します。

・本商品の元の設定
IP アドレス：192.1681.1
サブネットマスク：255.255.255.0

・プロバイダからの設定情報
IP アドレス：「XXX. ○○○ . □□□ .113 ～ XXX. ○○○ . □□□ .120」
サブネットマスク：255.255.255.248
DNS サーバ 1：■■■ . ■■■ . ■■■ . ■■■
DNS サーバ 2：■■■ . ■■■ . ■■■ . ■■■

・設定するパソコンの IP アドレス
「XXX. ○○○ . □□□ .115」

※■■■の箇所は、プロバイダに割り当てられた数値を入力します。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「WAN 側設定（インターネット)」を選択します。

2　「PPPoE」－［セッション -1 設定］の順にクリックします。

3　次のように設定します。

①「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。

②「接続ユーザーID」、「接続パスワード」、「接続パスワードに確認」を入力します。

③「PPPoEサービス・タイプ」は[Unnumbered IP」を選択します。

④「ルータIPは「XXX.○○○.□□□.114」と入力します(プロバイダから割り当てられた最初のIPアドレスはネットワークアドレスのため、次のIPアドレスが入ります)。

⑤「サブネットマスク」は「255.255.255.248」と入力します。

⑥「DNSサーバ」は「マニュアル設定」を選択し、「DNSサーバ1」に「■■■.■■■.■■■.■■■」と入力します。

⑦[設定]をクリックします。

4　設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。

・IP アドレスは「XXX. ○○○ . □□□ .115」と入力します（設定したい IP アドレス）。
・サブネットマスクは「255.255.255.248」と入力します。
・デフォルトゲートウェイは「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します（ルータ IP と同じ）。
・DNS サーバは「■■■ . ■■■ . ■■■ . ■■■」と入力します。

メモ　**パソコンの TCP/IP の変更方法については「パソコンの TPC/IP を設定するには」（P.38）をご覧いただくか、各 OS の取扱説明書をご覧ください。**

5　本商品の設定画面を再度表示させる場合は、Web ブラウザのアドレス欄に入力する IP アドレスを「WAN 側設定（インターネット)」で設定した「xxx. ○○○ . □□□ .114」と入力します。

以上で設定は完了です。
「PART2　設定画面について」「PPPoE」（P.59）もあわせてご覧ください。

●Unnumbered IP＋Private IP

本商品にグローバル固定IPのパソコンのほかにプライベートIPのパソコンを接続する場合に設定します。

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「WAN側設定（インターネット）」－「PPPoE」の順に選択し、[セッション-1設定］をクリックします。

2　「PPPoEサービス・タイプ」は「Unnumbered IP＋Private IP」を選択します。

3　その他のルータの設定は、「Unnumbered IP」（P.21）と同じです。

メモ **パソコンのTCP/IPの変更方法については「パソコンのTPC/IPを設定するには」（P.38）をご覧いただくか、各OSの取扱説明書をご覧ください。**

4　グローバル固定IPを設定したパソコンから本商品の設定画面を表示させる場合は、Webブラウザのアドレス欄に「WAN側設定（インターネット）」で設定した「xxx.○○○.□□□.114」を入力し、Eneterキーまたはreturnキーを押します。
プライベートIPを使用するパソコンから本商品の設定画面を表示させる場合はWebブラウザのアドレス欄に「192.168.1.1」と入力し、Enterキーまたはreturnキーを入力します。

以上で設定は完了です。
「PART2　設定画面について」「PPPoE」（P.59）もあわせてご覧ください。

ダイナミックDNSを使用してURLで接続するには

本商品に接続したパソコンをバーチャル・サーバ（ポート開放）などでサーバ公開している場合、通常は接続のたびに変更されるグローバルIPにアクセスする必要がありますが、ダイナミックDNSを使用することで常に同じダイナミックDNS名でアクセスすることができるようになります。
ダイナミックDNSを使用するには、次の手順を行います。また、本商品に接続したパソコンがインターネットに接続できる必要があります。

1　ダイナミックＤＮＳサービスに未登録の場合は、「ｃｏｒｅｄｅ.ｎｅｔ」（無料／日本語ページ）、「DynDNS.org」（無料／英語ページ）、「IvyNetwork」（有料／日本語ページ）のいずれかのサービスに登録します。
詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガホームページ（http://corega.jp/）から「製品情報」－「導入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミックDNS活用ガイド」をご覧ください（2008年1月現在）。

URL：http://corega.jp/product/navi/ddns/

- 本商品が対応するダイナミックDNSサービスは、「corede.net」、「DynDNS.org」、「IvyNetwork」「@Net DDNS」のみとなります。
- 「DynDNS.org」、「IvyNetwork」、「@Net DDNS」が運用するダイナミックDNSサービスについては、コレガのサポート対象外となります。
- 「@Net DDNS」は@Net Home会員のみのサービスとなります。ご利用いただく場合は、あらかじめ@Net Home加入者サポートページよりダイナミックDNSサービスをお申し込みください。

2　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「WAN側設定（インターネット）」－「ダイナミックDNS」の順に選択します。

3　次のように設定します。

①使用するダイナミックDNSを選択します。

②「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」の各欄にダイナミックDNSサービスに登録した情報を入力します。

③[設定]をクリックします。

ここでは以下の設定を例に説明します。
・使用するダイナミック DNS
DynDNS.org
・ドメイン名
coreddns.dynalias.net

4　設定更新後、画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は完了です。
「PART2 設定画面について」の「ダイナミックDNS（DDNS）」（P.66）もあわせてご覧ください。

無線アクセスポイントとして使用するには

アッカ・ネットワークスやイー・アクセス、NTTなどのルータ機能付きモデムをお使いの場合は、本商品のルータ機能を無効にすることで、ルータ機能付きモデムの設定をそのままで本商品を無線アクセスポイントとしてお使いいただくことができます。

・ここで紹介する手順を行う前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信できるかご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法については、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。
・本設定後に再度設定画面を表示させる場合は、「設定画面を起動するには」（P.5）の手順2でアドレス欄に「192.168.1.220」を入力してください。
・ルータ機能を無効にするとDHCPサーバの機能も停止します。本商品のDHCPサーバ機能を使用してパソコンのIPアドレスを取得している場合は、IPアドレスの取得方法を変更する必要がある場合があります。

●ルータ機能スイッチを使う

1　パソコンの電源を切ります。

2　本商品の電源を切り、背面のルータ機能スイッチをOFFにします。

3　本商品、パソコンの順に電源を入れます。

本商品のルータ機能スイッチでルータ機能をOFFにした後、ルータ機能スイッチをONにした場合、IPアドレスは「192.168.1.220」のまま変更はありません。設定画面を表示して、「ルータ機能」を「有効」にします。

●設定画面で設定する

1　設定画面を起動し、画面左側のメニューから「モード」を選択します。

2　次のように設定します。

①「ルータ機能」を「無効」にします。

②[設定]をクリックします。

3　Webブラウザを終了して、パソコンを再起動します。

以上で本商品の設定は完了です。

・本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品のIPアドレスは自動的に「192.168.1.220」に変更されます。
・本商品のルータ機能を再び有効にした場合、本商品のIPアドレスは自動的に「192.168.1.1」に変更されます。
・本商品のルータ機能を無効にした場合、本商品のWANポートはLANポートとして使用できます。

本商品のログイン名（ユーザ名)、パスワードを変更したいときは

本商品のログイン名（ユーザ名)、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　次のように設定します。

①新しく設定するログイン名を入力します。

②新しく設定するパスワードを入力します。

③確認のため②で入力したパスワードを再度入力します。

④[設定]をクリックします。

3　設定画面更新後に画面右上の［ログアウト］をクリックします。

以上で設定は完了です。

最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは

本商品の機能強化のため予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアはコレガホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。

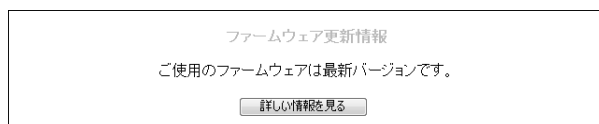
- 更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
- ファームウェアをアップデートする前に「バックアップを取る」（P.32）をご覧になり、本商品の設定内容を控えておいてください。
- ファームウェアをアップデート中は、ほかの操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアアップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

●ファームウェアをダウンロードする

ファームウェアをアップデートする前に、お使いのファームウェアが最新のバージョンかどうかを確認します。

1　設定画面を表示し、「最新ファームウェアの確認」をクリックします。

2　結果が表示されます。最新のファームウェアがある場合は、次の画面が表示されます。[ファームウェアのダウンロードページへ] をクリックします。

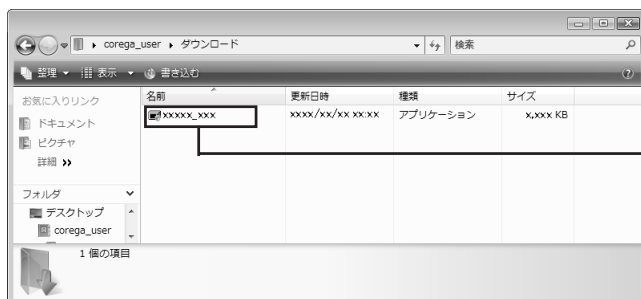
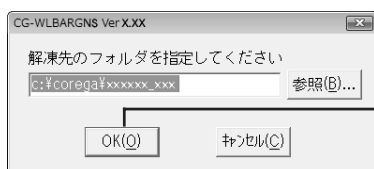
次の画面が表示された場合は、お使いのファームウェアは最新のバージョンです。ファームウェアをアップデートする必要はありません。

3　コレガホームページ内の本商品のファームウェアダウンロードページが表示されます。ファームウェアのファイルをクリックします。

Macintoshでお使いの場合は、「.sit」の拡張子のファイルをクリックしてダウンロードしてください。ダウンロード後、ファイルをクリックし、解凍してから「ファームウェアをアップデートする」（P.30）をご覧ください。

4　［保存］をクリックします。

5　保存先を指定し、［保存］をクリックします。

6　ファームウェアのダウンロードが完了すると次の画面が表示されます。［閉じる］をクリックします。

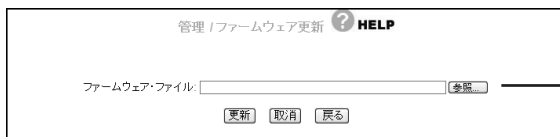
7　ファームウェアを保存したフォルダを開き、ダウンロードしたファイルダブルクリックします。

8　［実行］をクリックします。

9　［OK］をクリックします。

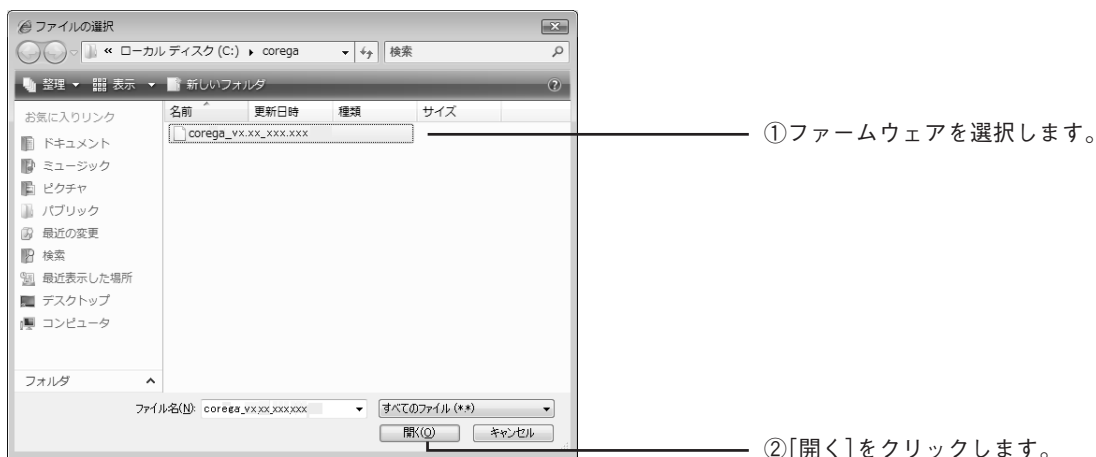
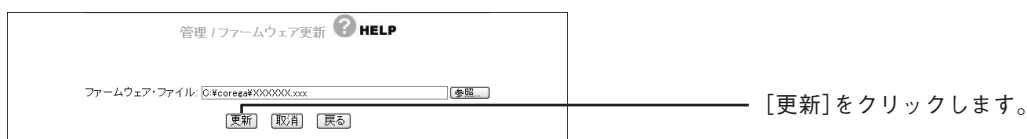
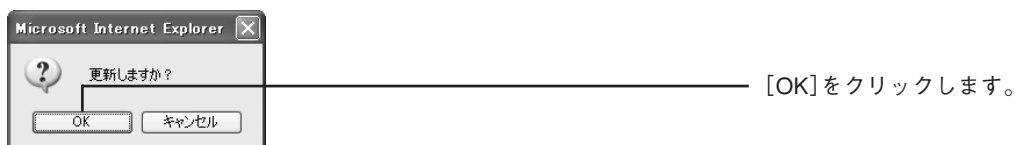
・標準の状態では、「C:¥corega」に解凍されます。解凍先を指定する場合は、[参照] をクリックして、解凍する場所を指定してください。
・Windows Vistaでは引き続き次の画面が表示されることがあります。その場合は、「このプログラムは正しくインストールされました」をクリックしてください（弊社にて動作を確認しています）。

●ファームウェアをアップデートする

ここでは「ファームウェアをダウンロードする」(P.28) の手順に従って、「C:¥corega」という名前のフォルダに最新のファームウェアを保存した場合を例として説明しています。

1　設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　「ファームウェア更新」をクリックします。

3　[参照] をクリックします。

4 「C:¥corega」内のファームウェアを選択し、［開く］をクリックします。

5 ［更新］をクリックします。

6 次の画面が表示されますので、［OK］をクリックし、ファームウェアのアップデートを開始します。

7 アップデートが完了したら、初期化ボタンを 15 秒以上押して本商品を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻すには」（P.35）をご覧ください。

注意 **ファームウェアのアップデート後に工場出荷時の状態に戻すには、設定画面からではなく必ず本商品の背面の初期化ボタンを使用してください。**

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品のファームウェア以外のファイルを読み込ませた場合は再起動します。再起動後、本商品のファームウェアファイルを用意して再度ファームウェアのアップデートを行ってください。

本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは

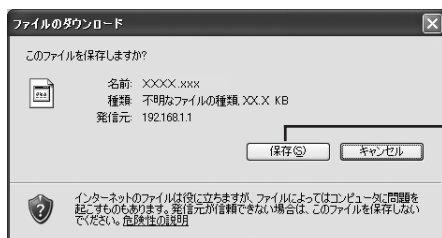
現在の設定内容をバックアップすると、何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に、保存してあるバックアップファイルを使用して設定を元に戻すことができます。

バックアップしたファイルは、更新されたファームウェアのバージョンによって反映されない場合があります。

●バックアップを取る

1　設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

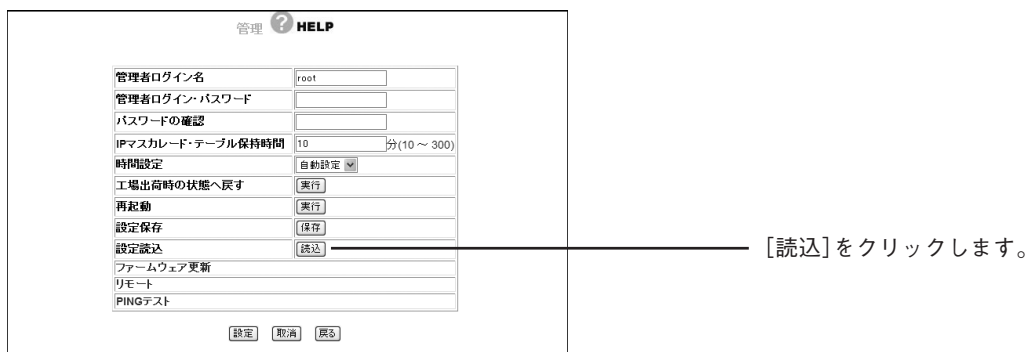
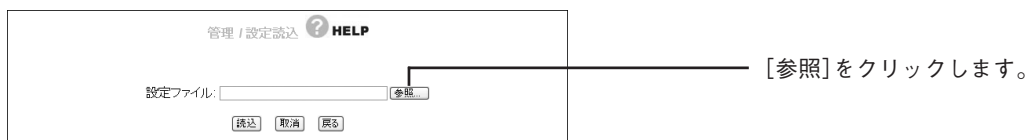
2　「設定保存」の［保存］をクリックします。

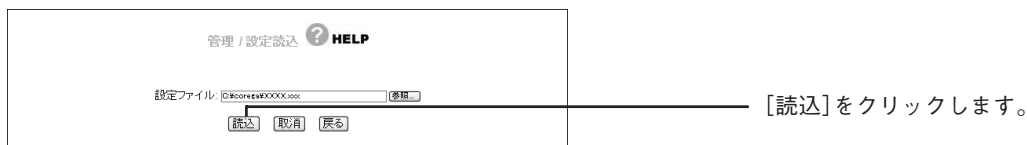
3　「ファイルのダウンロード」のダイアログボックスが表示されますので、［保存］をクリックします。

4　「名前を付けて保存」のダイアログボックスが表示されますので、保存する場所を指定して［保存］をクリックし、ファイルを保存します。

以上で本商品の設定内容がバックアップされました。

●元に戻す

1　設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　「設定読込」の［読込］をクリックします。

3　次の画面が表示されますので、［参照］をクリックします。

4　「バックアップを取る」（P.32）で保存したファイルを選択し、［開く］をクリックします。

5　［読込］をクリックします。

6　「設定完了まであとxx秒お待ちください。」と表示されますので、設定が完了するまでお待ちください。

メモ　**画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なる場合があります。**

以上で本商品の設定が元に戻りました。

本商品を再起動するには

本商品を再起動するには、次のいずれかの手順を行います。本商品の設定を変更した場合には、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。

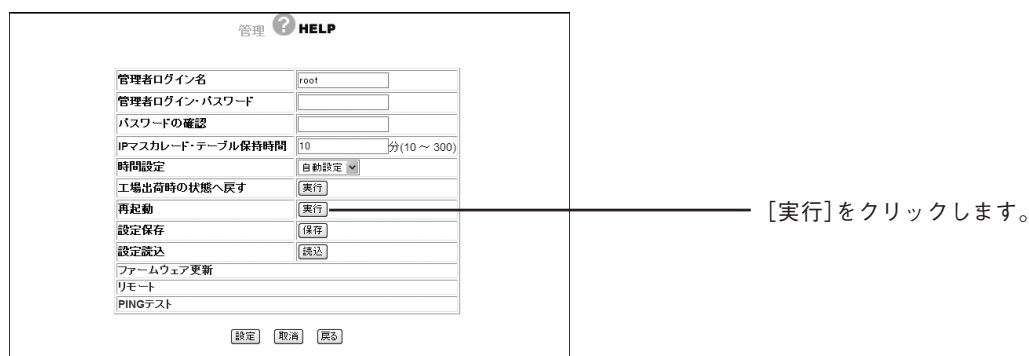
●電源を抜く

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから抜き、その後再度差し込みます。

本商品が起動するまでおよそ 2 分程度かかります。本商品の起動が完了するまでしばらくお待ちください。

●設定画面を使う

1　設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　「再起動」の［実行］をクリックします。

3　次の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。

4　「起動完了まで xx 秒お待ちください。」と表示されますので、再起動するまでお待ちください。

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なる場合があります。

以上で本商品が再起動しました。

本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります。

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいます。重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり、「バックアップを取る」（P.32）をご覧になり、設定のバックアップを取っておいてください。

●初期化ボタンを使う

1　本商品の電源がオンの状態で、背面にある初期化ボタンを15秒以上押し、離します。
初期化ボタンはクリップなど硬くて細いもので押してください。

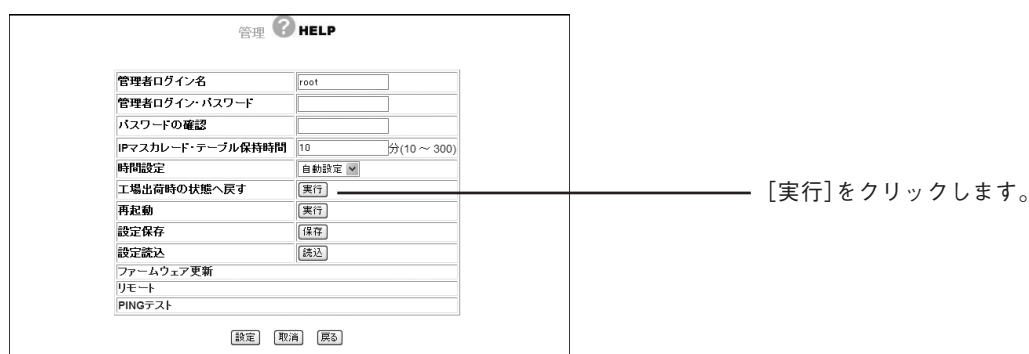
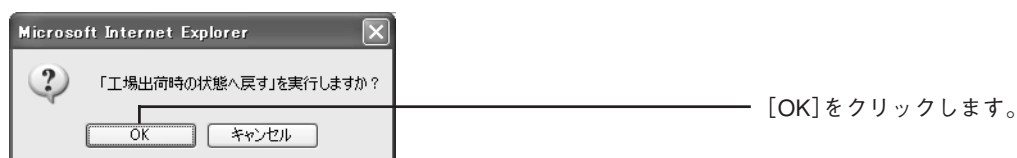
2　本商品が起動を始めます。

3　前面のPower LEDが点灯し、しばらくするとStatus LEDが点滅→消灯に変わり、ルータが起動したことを確認します。

以上で本商品が工場出荷時の状態に戻ります。

●設定画面を使う

1　設定画面を表示し、画面左側のメニューから「管理」を選択します。

2　「工場出荷時の状態へ戻す」の［実行］をクリックします。

3　次の画面が表示されますので、［OK］をクリックします。

4　「起動完了まであとxx秒お待ちください。」と表示されますので、工場出荷時の状態に戻るまでお待ちください。

メモ

画面に表示される秒数は、お使いの環境によって異なる場合があります。

以上で、本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

パソコンのIPアドレスを調べたいときは

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の方法で行ってください。Windows以外のOSを使用している場合は、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

●Windows Vistaの場合

1　［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。

2　キーボードから「ipconfig」と入力してEnterキーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

「ipconfig」と入力し、Enterキーを押します。
※画面例
「C:¥Users¥corega」の部分は、パソコンの使用環境によって表示が異なります。

3　「IPv4アドレス」に記載されているIPアドレスを確認します。

IPアドレスを確認します。
※正しく表示されない場合は、「ipconfig■/renew」と入力して、Enterキーを押します（■は半角スペースを入力します）。

●Windows XP/2000の場合

1　「スタート」－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。

2　キーボードから「ipconfig」と入力してEnterキーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:¥Documents and Settings¥corega>ipconfig

「ipconfig」と入力し、Enterキーを押します。
※画面例
「C:¥Documents and Settings¥corega」の部分は、パソコンの使用環境によって表示が異なります。

3　IPアドレスを確認します。

IPアドレスを確認します。
※正しく表示されない場合は、「ipconfig■/renew」と入力してEnterキーを押します（■は半角スペースを入力します）。

●Windows ME/98SEの場合

1　「スタート」－「ファイル名を指定して実行」の順に選択します。

2　「名前」の欄に「winipcfg」を入力して［OK］をクリックします。

3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］をクリックしたあとで、［書き換え］をクリックします。

パソコンのTCP/IPを設定するには

本商品に接続するパソコンは通常、ネットワークアダプタのTCP/IPが自動取得に設定された状態で使用します。本商品の設定画面が表示されない場合は、次の手順でTCP/IPの設定をご確認ください。

Windows Vista/XP/2000では、「コンピュータの管理者」または同等の権限を持つユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限についてはOSの取扱説明書をご覧ください。

●Windows Vistaの場合

■ネットワークアダプタの状態を確認する

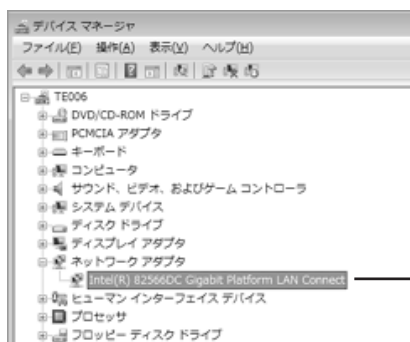
パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　［スタート］をクリックし、「コンピュータ」を右クリックして「プロパティ」を選択します。

2　「デバイスマネージャ」をクリックします。

3　「ユーザー アカウント制御」画面が表示されますので、［続行］をクリックします。

4　「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

5　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

「×」や「！」マークが表示されている場合は、ネットワークアダプタが正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

■TCP/IPプロトコルを確認する

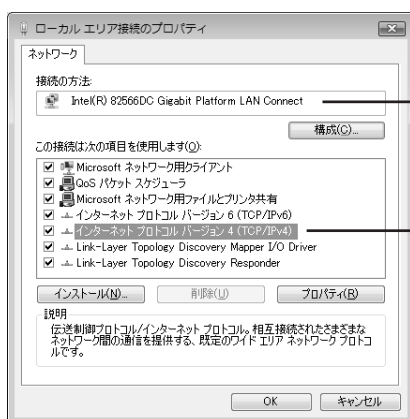
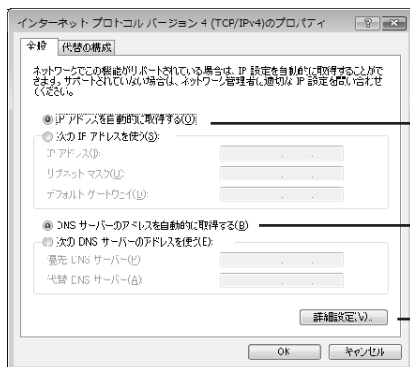
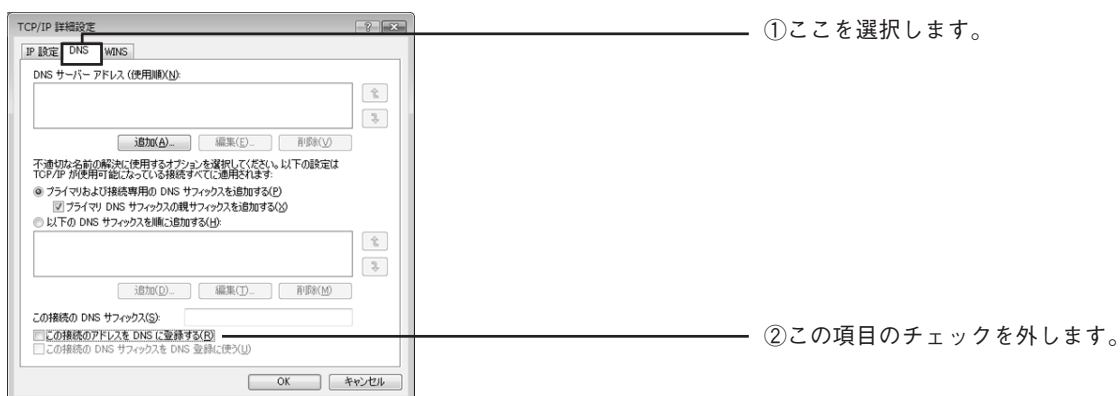
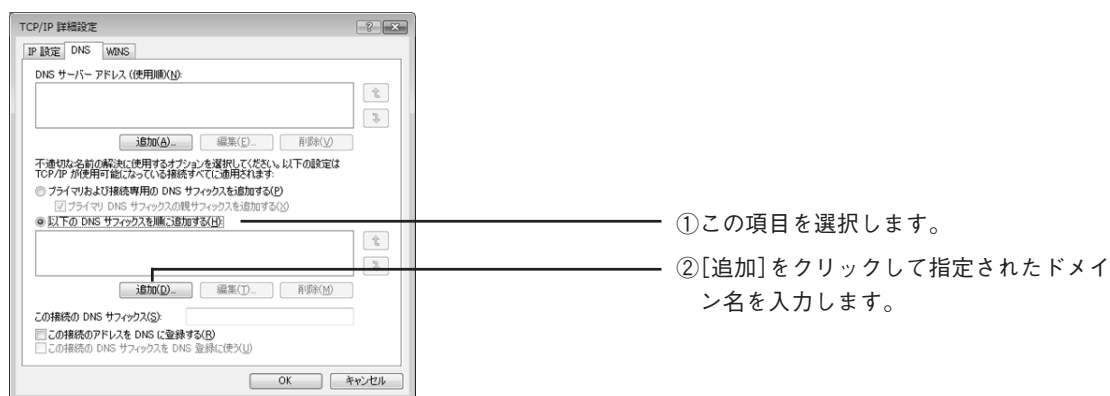
1　［スタート］－「コントロールパネル」をクリックします。

2　「ネットワークとインターネット」－「ネットワークと共有センター」の順にクリックします（クラシック表示にしている場合は「ネットワーク共有センター」をクリックします）。

3　画面左側から「ネットワーク接続の管理」をクリックします。

4　「ローカルエリア接続」（無線では「ワイヤレス ネットワーク接続」）を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

5　「ユーザー アカウント制御」画面が表示されますので、［続行］をクリックします。

6 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から「インターネット プロトコル バージョン４（TCP/IP)」をダブルクリックします。

7 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバのアドレスを自動的に取得する」が選択されていることを確認し、［詳細設定］をクリックします。

8　「TCP/IP詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。

注意　プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメインを入力してください。

9　［OK］をクリックし、「インターネット プロトコルバージョン４（TCP/IP）のプロパティ」－「ローカル エリア接続のプロパティ」（無線の場合は「ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ」）の順に［OK］をクリックします。

以上で TCP/IP の設定は完了です。

「Web ブラウザの設定を調べたいときは」（P.54）もあわせてご覧ください。

●Windows XPの場合

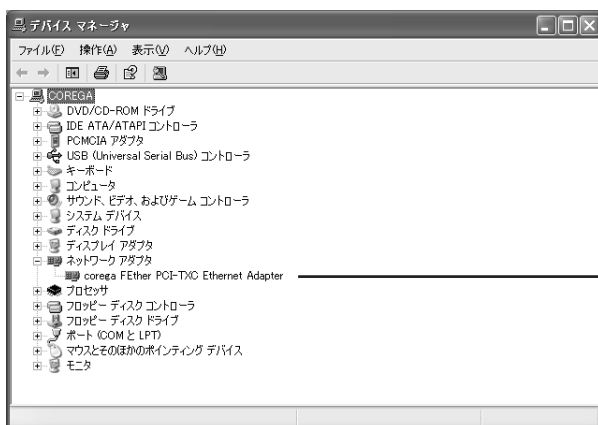
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1 「スタート」－「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2 「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3 「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4 ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

注意 「×」や「！」マークが表示されている場合は、ネットワークアダプタが正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

5 「デバイスマネージャ」を閉じます。

■TCP/IP プロトコルを確認する

1 「スタート」－「コントロールパネル」の順に選択します。

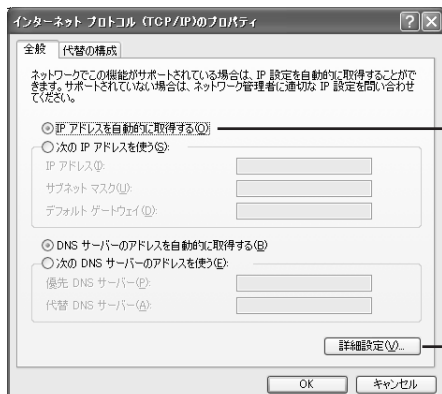
2 「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックします。

3 「ネットワーク接続」をクリックします。

4 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP)」にチェックが付いているか確認します。

6　「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7　「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8　「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。

注意　**プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。**

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

12 再起動を促すメッセージ表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

以上で TCP/IP の設定は完了です。

「Web ブラウザの設定を調べたいときは」（P.54）もあわせてご覧ください。

●Windows 2000の場合

この作業は「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

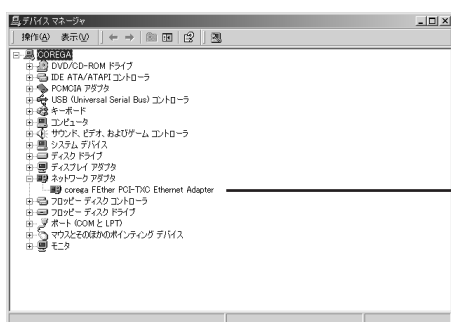
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2　「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］をクリックします。

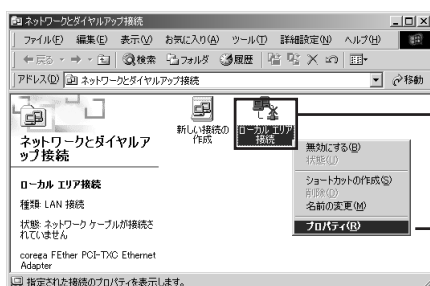
3　「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

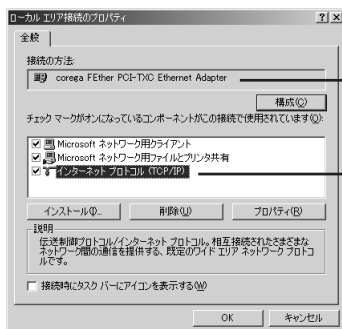
4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

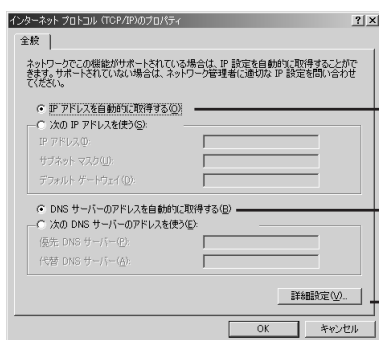
「×」や「！」マークが表示されている場合は、ネットワークアダプタが正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

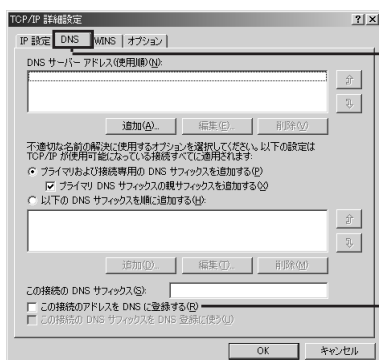
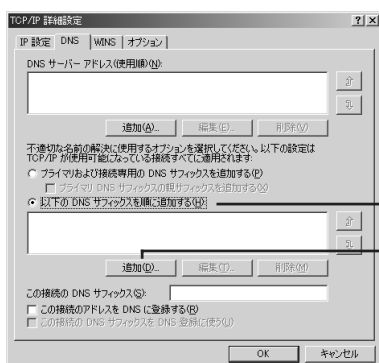
5　「デバイスマネージャ」を閉じます。

■TCP/IPプロトコルを確認する

1　「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2　「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

メモ 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.46）をご覧ください。

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6 「TCP/IP 設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

注意 **プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。**

7 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

8 「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

以上で TCP/IP の設定は完了です。

「Web ブラウザの設定を調べたいときは」（P.54）もあわせてご覧ください。

■ TCP/IP をインストールする

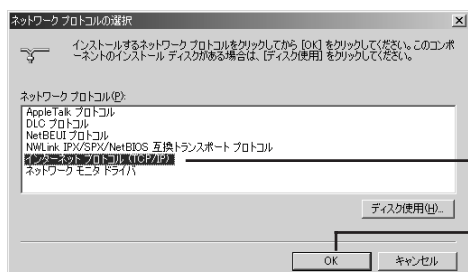
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」の［インストール］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］をクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」の「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認し、［OK］をクリックして画面を閉じます。

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.44）からの設定を行ってください。

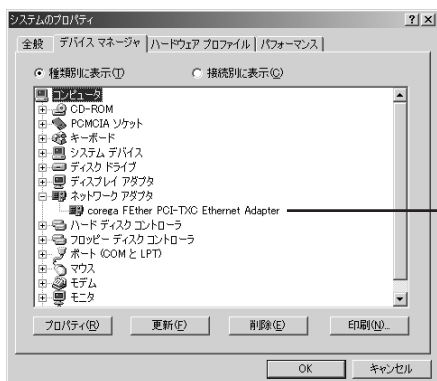
●Windows Me/98SEの場合

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップの「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2　「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

・「×」や「！」マークが表示されている場合は、ネットワークアダプタが正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。
・「Microsoft 仮想プライベートネットワークアダプタ」、「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

■ TCP/IP プロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをお使いの場合も手順は同様です。

1　「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2　「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

Windows Me をお使いの場合は、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されていることがあります。その場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されるようになります。

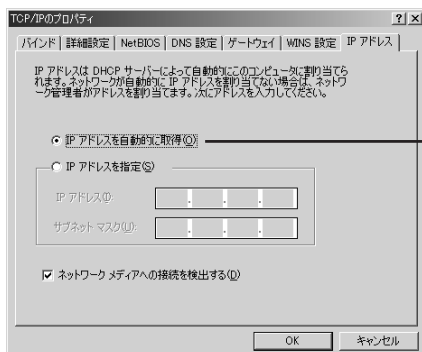
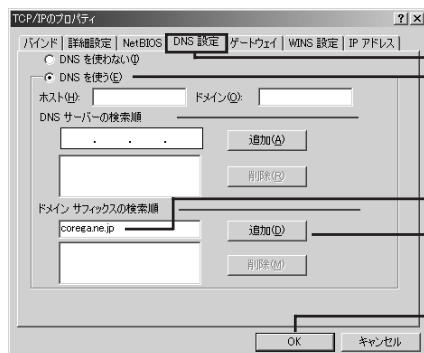
3 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP－＞xxxxx（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

※画面は例です。
・「TCP/IP－＞」の横に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。
・ダイヤルアップアダプタがない場合は、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

「TCP/IP－＞xxxxx（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.49）をご覧ください。

4 「現在のネットワークコンポーネントの一覧から「TCP/IP－＞xxxxx（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

「TCP/IP－＞xxxxx（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、お使いになりたいネットワークアダプタを選択します。

5 「IPアドレス」タブの「IPアドレスを自動的に取得」を選択します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「DNS 設定」タブの「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］をクリックしてください。

6 「TCP/IP のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

7 「ネットワーク」画面の［OK］をクリックします。

Windows の OS ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROM ドライブ（またはフロッピィディスクドライブ）に Windows OS ディスクを挿入し、メッセージに従って操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

以上で TCP/IP の設定は完了です。

「Web ブラウザの設定を調べたいときは」（P.54）もあわせてご覧ください。

■ TCP/IP をインストールする

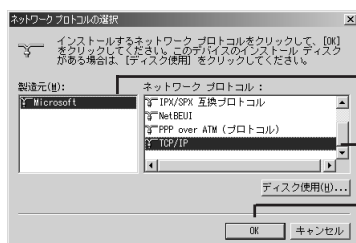
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「ネットワーク」の［追加］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」の「製造元」から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］をクリックします。

6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP －＞xxxxx（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確認します。

※画面は例です。

・「TCP/IP-＞」の横に表示される名称は、ご使用のネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

・ダイヤルアップアダプタがない場合は、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」、「TCP/IP」などと表示される場合もあります。

7 ［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。

・メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

・WindowsのOSディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（またはフロッピィディスクドライブ）にWindows OSディスクを挿入し、メッセージに従って操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

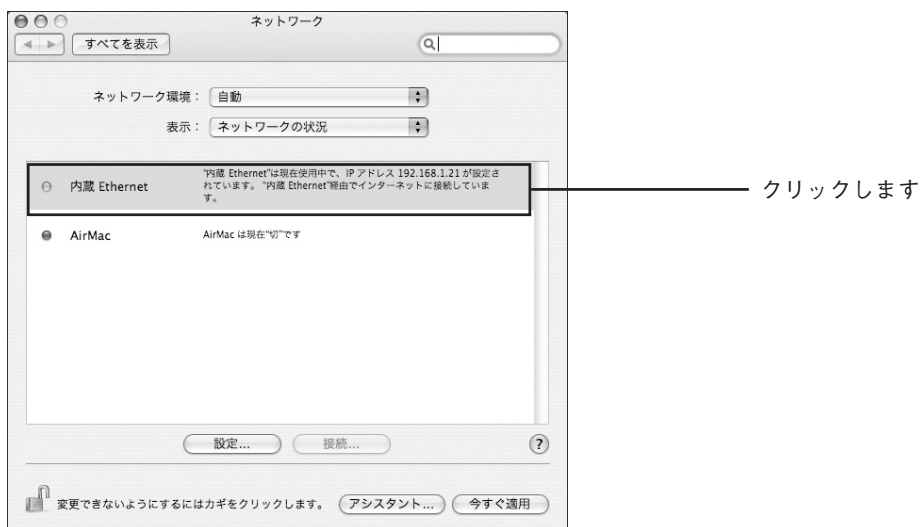
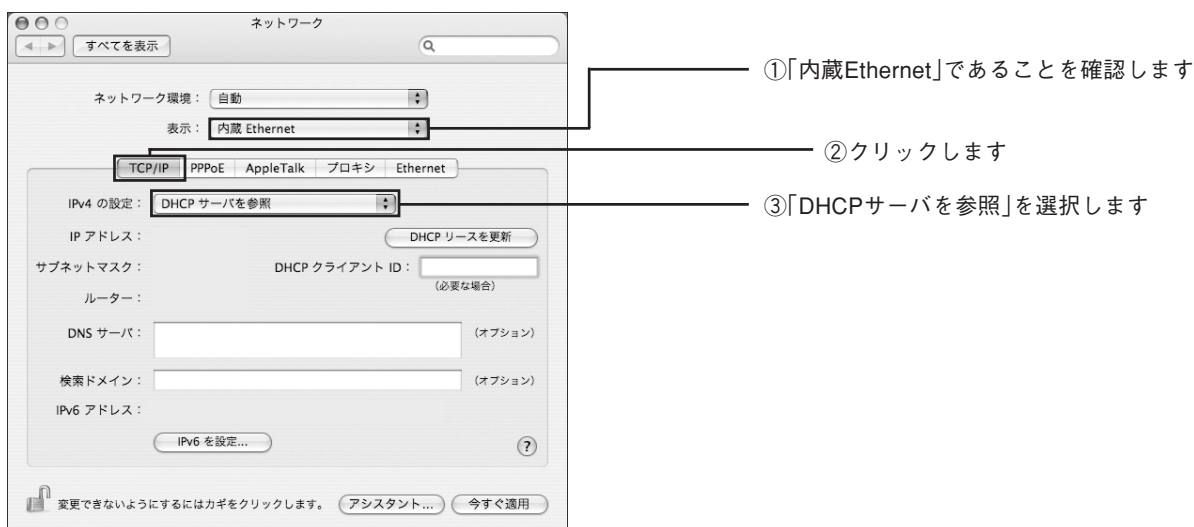
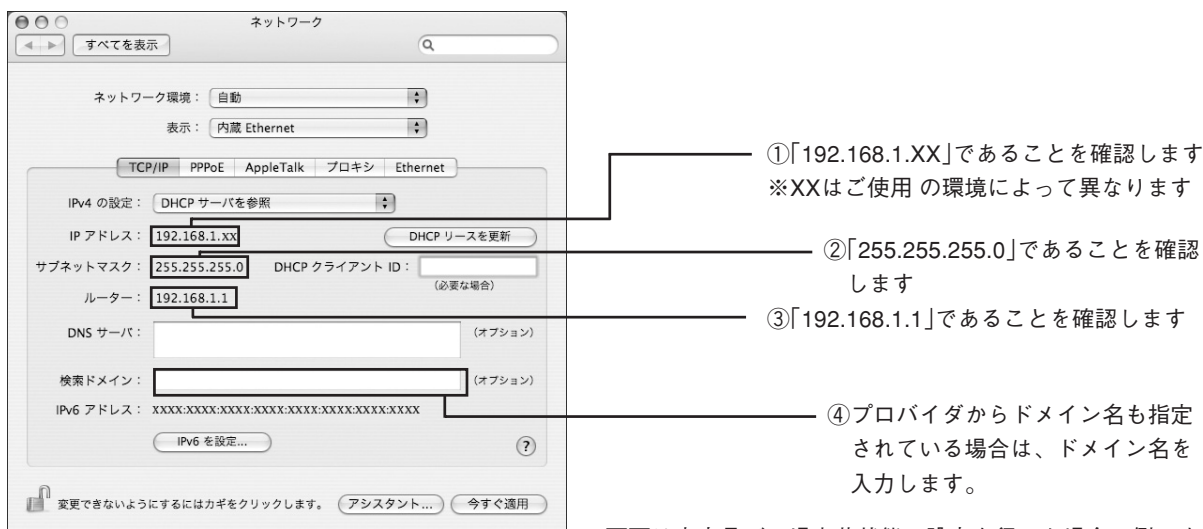
インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.47）からの設定を行ってください。

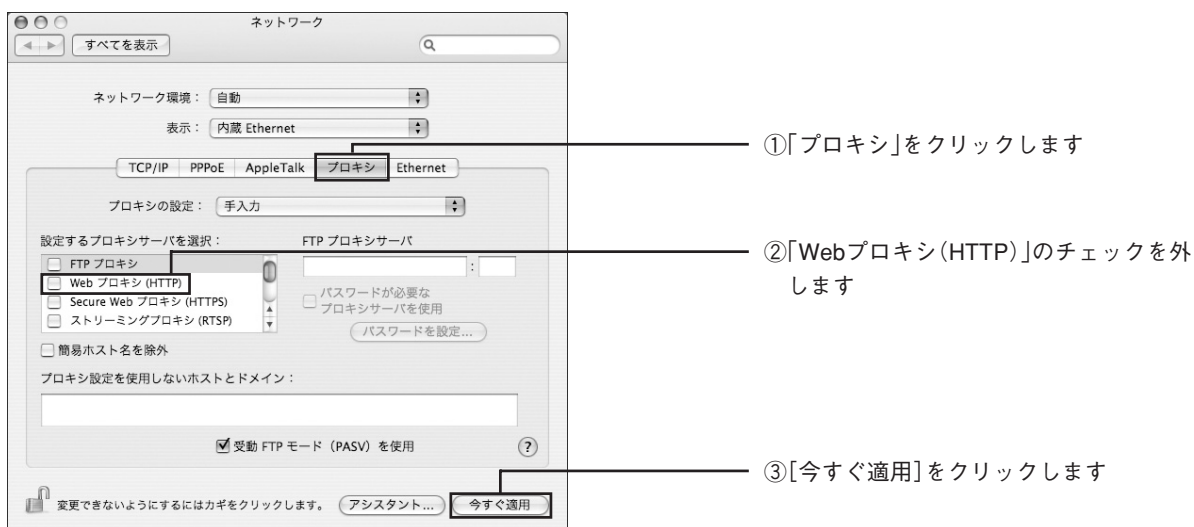
●Macintoshの場合

Mac OS X（10.3～10.4.X）に標準インストールされているSafariを使って、本商品の設定画面を表示する方法を説明します。本商品との接続方法については、付属のお使いの手引き「PART2　インターネットに有線で接続する」をご覧ください。

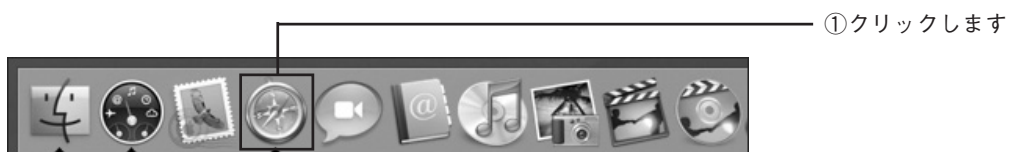
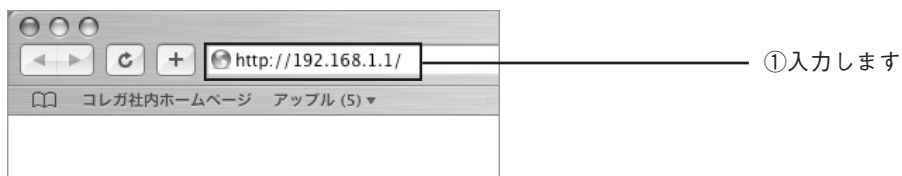
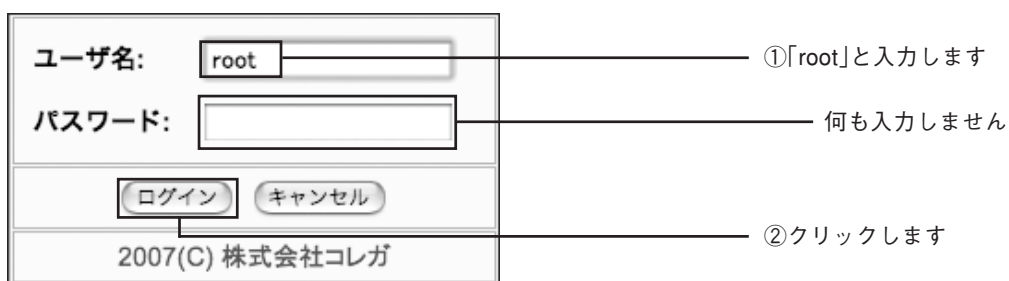
1　「アップルメニュー」－「システム環境設定」の順にクリックします。

2　「ネットワーク」アイコンをクリックします。

3　「内蔵 Ethernet」をクリックします。

4　「表示」が「内蔵Ethenet」であることを確認し、「TCP/IP」タブの「IPv4の設定」で「DHCPサーバを参照」を選択します。

5　「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ルーター」を確認します。

※画面は本商品が工場出荷状態で設定を行った場合の例です

6　「プロキシ」タブの「Webプロキシ（HTTP）」のチェックを外します。

これでMAC OS Xのネットワーク設定は完了しました。

○設定画面を表示する

1　Dock の中の Safari をクリックして起動します。

2　アドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの return キーを押します。

3　「ユーザ名」に「root」と入力して、［ログイン］をクリックします。

以上で設定画面が表示されます。

Web ブラウザの設定を調べたいときは

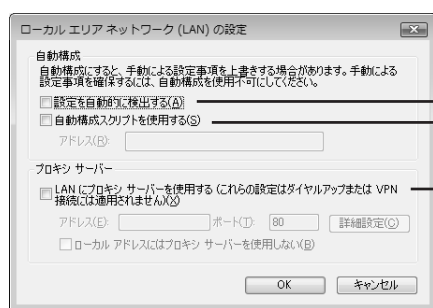
本商品の設定画面が表示されない場合は、Web ブラウザの設定も確認します。ここではInternet Explorer 7の場合の設定方法を例に説明しています。そのほかのWeb ブラウザの場合は、Web ブラウザのヘルプなどをご覧いただき、設定してください。

1　Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。

2　「インターネットオプション」が表示されたら「接続」タブを選択します。

メモ　**このとき「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることを確認してください。**

3　［LAN の設定］をクリックします。

4　「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」の「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックを外します。

5　［OK］をクリックします。

6　「インターネットオプション」の［OK］をクリックします。

以上でWeb ブラウザの設定は完了です。

PART 2

設定画面について

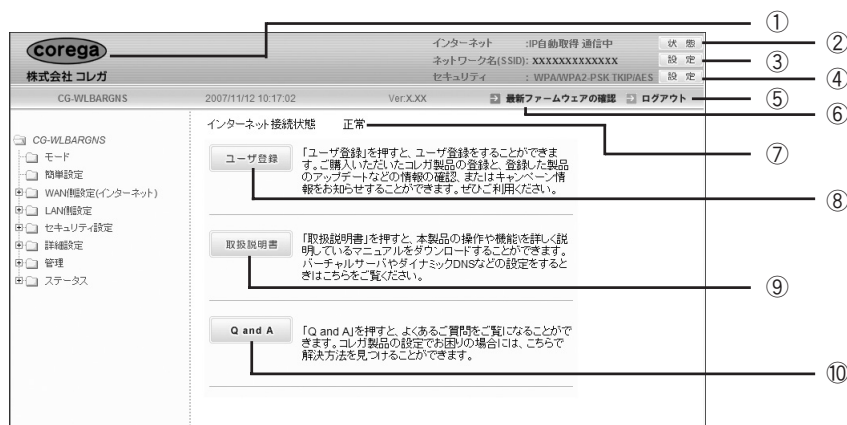
このPARTでは、本商品の設定画面について説明します。本商品を使っていて「機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定画面の全体構成

設定画面の各機能

- この PART では例を使用して説明しています。実際にはお使いの環境に合った値を入力してください。
- 各画面にある「HELP」をクリックすると、設定項目の説明が表示されます。
- 各画面の例は、DHCP（IP 自動取得）接続の画面です。PPPoE 接続や IP 固定接続では、画面が例と異なる場合があります。

●CG-WLBARGNS（トップページ）

インターネットに接続している場合の起動時の状態です。インターネットに接続していない場合は、「簡単設定」画面（P.57）を表示します。

①コレガロゴ
インターネットに接続時にクリックすると、コレガホームページを表示します。

②インターネット[状態]
クリックすると、「ステータス」画面（P.91）を表示します。

③ネットワーク名（SSID）[設定]
クリックすると、「802.11g/b設定」画面（P.73）を表示します。

④セキュリティ[設定]
クリックすると、「802.11g/bセキュリティ設定」画面（P.75）を表示します。

⑤[ログアウト]
クリックすると設定画面からログアウトします。再度設定画面の操作をする場合は、ログイン後の画面で[再ログイン]をクリックします。

⑥[最新ファームウェアの確認]
インターネット接続時にクリックすると、本商品の最新ファームウェアの有無を確認します。

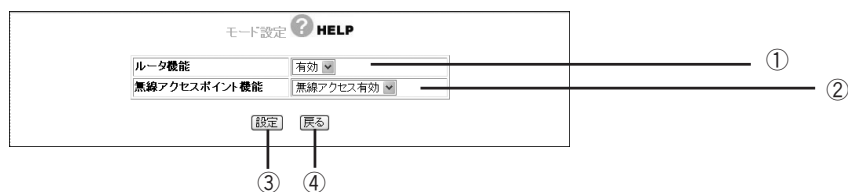
⑦インターネット接続状態
インターネットの接続状態を表示します。

⑧[ユーザ登録]
インターネット接続時にクリックすると、コレガのホームページからユーザ登録をすることができ、最新のコレガの製品情報をお知らせすることができます。

⑨[取扱説明書]
インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページを表示して「詳細設定ガイド」（本書）など各取扱説明書の最新版をダウンロードすることができます。

⑩[Q and A]
インターネット接続時にクリックすると、コレガホームページのよくあるお問い合わせを表示します。

●モード

「ルータ機能」と「無線アクセスポイント機能」のモード切り替えを設定できます。

①ルータ機能

ルータ機能の有効／無効を設定

- **有効**
  ルータ機能を使用します（初期値）。
- **無効**
  ルータ機能を使用しません。

②無線アクセスポイント機能

無線アクセスポイント機能の有効／無効を設定します。

- **無線アクセス有効**
  無線アクセスポイント機能を使用します（初期値）。
- **無線アクセス無効**
  無線アクセスポイント機能を使用しません。

③[設定]

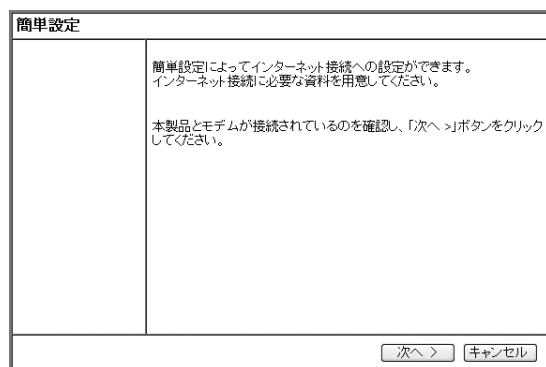
設定した内容を保存します。

④[戻る]

「トップページ」（P.56）に戻ります。

●簡単設定

簡単にインターネット接続の設定ができます。設定の詳細については、付属の「お使いの手引き」の「PART2 インターネットに有線で接続する」ー「ルータをお使いの環境に合わせて設定する」をご覧ください。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

●WAN側設定(インターネット)

WAN 側の通信方法を設定できます。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①リンク速度

WAN側ポートリンク方法を設定できます。

- **自動、100M Full、100M Half、10M Full、10M Half**
  WAN側ポートのリンク方法を自動、100MbpsのFull Duplex、100MbpsのHalf Duplex、10MbpsのFull Duplex、10MbpsのHalf Duplexから選択します(初期値:自動)。
  通常は「自動」から変更する必要はありません。WAN側が正常にリンクできない場合はお試しください。

②MDI切替

MDIの切替方法を設定できます。

- **自動**
  MDIを自動で設定します(初期値)。

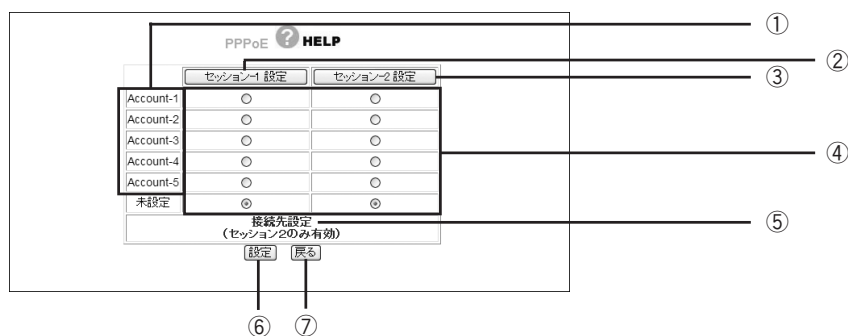
③接続方法

WAN側通信の接続方法を設定できます。お使いの回線によって選択します。

- **PPPoE**
  フレッツ・ADSL、Bフレッツなどで接続する場合に選択します。設定画面の表示や設定項目については「PPPoE」画面(P.59)をご覧ください。
  PPPoEの設定方法は、付属の「お使いの手引き」の「PART2 インターネットに有線で接続する」−「ルータをお使いの環境に合わせて設定する」をご覧ください。
  マルチPPPoEの設定方法は、「マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには」(P.19)をご覧ください。
  Unnumbered IPの設定方法は、「複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered IP/Un−numbered IP+Prinvate IP)」(P.19)をご覧ください。

- **IP自動取得(DHCP)/IP固定**
  Yahoo! BB、CATVなど、IPアドレスを自動取得する場合や、IPアドレスを固定で割り当てられている場合に選択します。詳しい設定画面は「IP自動取得(DHCP)/IP固定」画面(P.65)をご覧ください。
  IP自動取得(DHCP)の設定方法は付属の「お使いの手引き」の「PART2 インターネットに有線で接続する」−「ルータをお使いの環境に合わせて設定する」をご覧ください。

■ PPPoE

PPPoE アカウント設定とセッション設定を管理します。

①アカウント名

アカウント名を表示します。表示する内容を「アカウント名変更」画面（P.64）で変更することができます。

②[セッション-1 設定]

セッション-1の設定を行います。表示される画面の状態および設定項目については「セッション-1設定」（P.60）をご覧ください。

③[セッション-2 設定]

セッション-2の設定を行います。表示される画面の状態および設定項目については「セッション-1設定」（P.60）をご覧ください。

④アカウント選択

PPPoEアカウントとセッション-1、セッション-2の組み合わせを設定します。

⑤接続先設定（セッション2のみ有効）

マルチPPPoEを使用数r場合にどの通信をセッション-1で行い、どの通信をセッション-2で行うかを設定します。詳しい設定画面は「接続先設定」（P.63）をご覧ください。

⑥[設定]

設定した内容を保存します。

⑦[戻る]

「トップページ」（P.56）に戻ります。

○セッション-1 設定

セッション-1の設定を行います。設定前にプロバイダから指定された「接続ユーザーID」、「接続パスワード」などをご確認ください。

①セッション選択

設定したいセッションを選択します。「PPPoE」画面(P.59)で[セッション-1 設定]をクリックした場合はセッション-1が選択されています。

②[接続]

無通信時にクリックすると接続します。

③[切断]

通信中にクリックすると切断します。

④接続状態

現在のセッションの接続状態を表示します。

⑤セッションID

セッションIDを表示します。

⑥アカウント選択

使用するアカウントを選択・登録ができます(「セッション-1」で使用したアカウントは「セッション-2」で使用することはできません)。

アカウントを選択し、⑨～⑱にプロパイダから指定された設定項目を設定します。

⑦[アカウント名変更]

「PPPoE」画面(前ページ)のアカウント選択で表示される名称を変更することができます。表示画面および設定項目については「アカウント名変更」(P.64)をご覧ください。

⑧MACアドレス

本商品のWAN側(インターネット側)MACアドレスを表示します。

⑨接続ユーザーID

プロバイダから指定されたアカウントの接続ユーザーIDを入力します。

⑩接続パスワード

プロバイダから指定されたアカウントの接続パスワードを入力します。

⑪接続パスワードの確認

確認のため、再度⑩で入力した接続パスワードを入力します。

⑫**接続方法**

接続開始の方法を設定します。

・**常時接続**

常時インターネットに接続します。何らかの原因で通信が切断された場合も自動的に再接続します。

・**トリガ接続**

インターネットへの通信が発生したときに自動的に接続します。何らかの原因で通信が切断された場合は、次にインターネットへの通信が発生したときに接続します。

・**手動接続**

［接続］をクリックしない限りインターネットに接続しません。

⑬**無通信時間監視**

インターネットへの通信を行わなくなってから自動切断までの時間（分）を選定します（⑫で「トリガ接続」または「手動接続」を選択した場合のみ）。

⑭**MTU値**

MTUの値を設定します。右側の「自動調整」にチェックを付けるとMTU値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと576～1492バイトの範囲で設定できます。通常は自動調整のままでお使いください。

⑮**PPPoEサービス・タイプ**

使用するPPPoEのサービスタイプを選択します。

・PPPoE

通常のPPPoE接続、またはセッション-2を使用したマルチPPPoEを利用する場合に設定します（セッション-2使用不可）。⑯「ルータIP」および⑰「サブネットマスク」は設定しません。

・Unnumbered IP

複数のグローバルIP※1を割り当てるサービスを利用する場合に設定します（セッション-2使用不可）。⑯「ルータIP」および⑰「サブネットマスク」に設定するグローバルIPは、本商品のIPアドレスとしてWAN側／LAN側IPアドレスに設定されます。本商品に接続するパソコンにもグローバルIPを固定で設定します。

Unnubered IPの設定方法は「複数固定IPサービスを利用するには「Unnumbered IP/Unnum－bered IP＋Private IP」（P.19）をご覧ください。

・Unnumbered IP＋Private IP

複数のグローバルIPを割り当てるサービスとプライベートIP※2を同時に利用する場合に設定します（セッション2使用不可）。

複数のグローバルIPを割り当てるサービスを利用しつつ、IPマスカレード機能※3を利用してプライベートIPのパソコンを接続することができます。グローバルIPをパソコンで使用する場合は、IP自動取得に設定します。

Unnumbered IPの設定方法は「複数固定IPサービスを利用するには「複数固定IPサービスを利用するには」（P.21）をご覧ください。

※1　インターネットで使用されるIPアドレスのことです。グローバルIPアドレスとも呼びます。
※2　イントラネットやLAN組織内で自由に発行できるIPアドレスのことです。プライベートIPアドレスとも呼びます。
※3　1つのグローバルIPを複数のパソコンで共有する機能（ルータ機能）です。プライベートIPとグローバルIPを相互に変換することで実現できます。

⑯**ルータIP**

複数固定IPサービスでプロバイダから割り当てられたグローバルIPを入力します（⑮で「Unnum－bered IPおよびUnnumbered IP＋Private IP」を選択した場合のみ）。

⑰**サブネットマスク**

複数固定IPサービスでプロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力します（⑮で「Un－numbered IPおよびUnnumbered IP＋Private IP」を選択した場合のみ）。

⑱DNSサーバ

プロバイダから指定されたDNSサーバのIPアドレスを設定します。

・**自動設定**

プロバイダからDNSサーバが自動的に割り当てられる場合に選択します。

※サーバの値は自動的に設定されます。

・**マニュアル設定**

プロバイダからDNSサーバが指定されている場合に選択し、IPアドレスを入力します。DNSサーバが複数指定されている場合はDNSサーバ1およびDNSサーバ2に入力します。

⑲[設定]

設定した内容を保存します。

⑳[取消]

[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に戻します。

㉑[戻る]

「PPPoE」画面(P.59)に戻ります。

○セッション -2 設定

セッション -2 の設定を行います。

①セッション設定

設定したいセッションを選択します。「PPPoE」画面(P.53)で[セッション-2設定]をクリックした場合は、セッション-2が選択されています。

※そのほかの項目はセッション-1と同じ設定内容です。

○接続先設定

セッション 2 経由で通信するルールを設定します。

セッション 2 でフレッツ・スクウェアに接続する場合は、「マルチ PPPoE で 2 つの接続先を使い分けるには」(P.19) をご覧ください。

①設定リスト

③～⑨で設定した内容を表示します。

②[戻る]

「PPPoE」画面(P.59)に戻ります。

③接続アカウント

ルールを適用するアカウントを選択します。

④ルール選択

ルールを選択します。

・ドメイン名

接続先をドメインで指定する場合に選択します。

⑤「ドメイン名」に入力します。

・IPアドレス

接続先をIPアドレスで指定する場合に選択します。

⑥「IPアドレス」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ポート番号

接続先をポート番号で指定する場合に選択します。

⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ネットワーク

接続先をネットワークで指定する場合に選択します。

⑦「ネットワーク」に範囲を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・IPアドレス＋ポート番号

接続先をIPアドレスとポート番号で使用する場合に選択します。

⑥「IPアドレス」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

・ネットワーク＋ポート番号
接続先をネットワークとポート番号で指定する場合に選択します。
⑦「ネットワーク」と⑧「開始ポート／終了ポート」に値を入力し、⑨「プロトコル」で使用するプロトコルを選択します。

⑤ドメイン名
④「ルール選択」で「ドメイン名」を選択した場合に入力します。

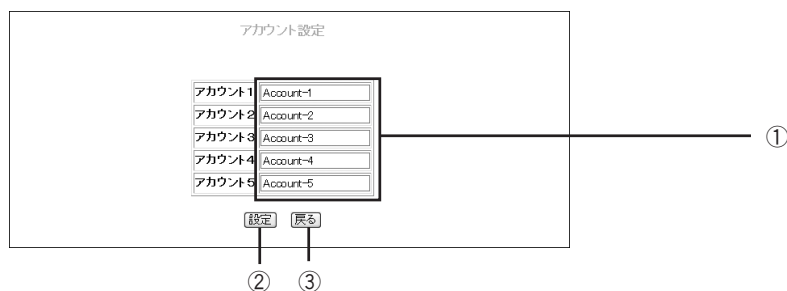
⑥IPアドレス
④「ルール選択」で「ネットワーク」および「IPアドレス＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑦ネットワーク
④「ルール選択」で「ネットワーク」および「ネットワーク＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑧開始ポート／終了ポート
④「ルール選択」で「ポート番号」、「IPアドレス＋ポート番号」、「ネットワーク＋ポート番号」を選択した場合に入力します。

⑨プロトコル
④「ルール選択」で「ドメイン名」以外を選択した場合に、対象のプロトコルを「ALL（TCP/UDP/ICMP）」、「TCP」、「UDP」から選択できます。

⑩［登録］
入力した内容を登録します。

○アカウント名変更

①アカウント名
アカウント名を入力します。

②［設定］
入力したアカウント名に変更します。

③［戻る］
設定をせず「セッション-1設定」画面（P.60）に戻ります。

■ IP 自動取得（DHCP）／IP 固定

IP アドレスの自動割り当て、または固定 IP を割り当てているプロバイダでのみ使用できます。

①MACアドレス

本商品のWAN側のMACアドレスを表示します。

②タイプ

IPアドレスの取得方法を選択します。

・IP自動取得（DHCP）

プロバイダからIPアドレスを指定されていない場合に選択すると、プロバイダから自動的にIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSアドレスなどのインターネットに必要な情報を取得します。

・IP固定

プロバイダからIPアドレスを指定された場合に選択します。「WAN側IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルト・ゲートウェイ」を手動で設定します（「IP固定」を選択した場合のみ表示されます）。

③ドメイン名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②で「IP自動取得（DHCP）」を選択した場合のみ表示されます）。

④コンピュータ名

プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②で「IP自動取得（DHCP）」を選択した場合のみ表示されます）。

⑤MTU値

576から1500までの範囲で割り当てることができます。接続環境にあわせて変更してください。

⑥DNSサーバ

プロバイダから指定されたDNSサーバのIPアドレスを入力します。

・自動設定

DNSサーバのIPアドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。

・マニュアル設定

プロバイダよりDNSサーバのIPアドレスが指定されている場合に選択し、IPアドレスを「DNSサーバ1」、「DNSサーバ2」に入力します。

⑦[設定]

設定した内容を保存します。

⑧[取消]

[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に取り消します。

⑨[戻る]

「トップページ」（P.56）に戻ります。

■ダイナミックDNS（DDNS）

インターネット側からIPアドレスではなく、URL（ドメイン名）を使用してLAN内のバーチャルサーバで設定したパソコンに接続できるように設定できます。この機能を使用すると、IPアドレスが固定されないサービスでも設定したドメイン名でサーバ公開できます。

①ダイナミックDNS
利用するDNSサービスを選択します。

②ログイン名
ダイナミックDNSサービスに登録したログイン名を入力します。

③ログインパスワード
ダイナミックDNSサービスに登録したパスワードを入力します。

④ドメイン名
ダイナミックDNSサービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。

⑤IPチェック時間
取得したドメイン名とIPアドレスの整合性を指定時間で確認します。

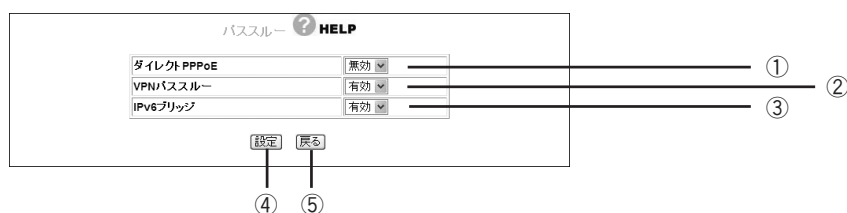
⑥[設定]
設定した内容を保存します。

⑦[取消]
[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に戻ります。

⑧[戻る]
「WAN側設定(インターネット)」画面(P.58)に戻ります。

⑨[更新]
ダイナミックDNSの状態を更新します。

■パススルー

各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

①ダイレクトPPPoE

PPPoEパススルーの有効／無効を選択します。

・**有効**

ダイレクトPPPoEを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接PPPoE接続する場合に有効にします。

・**無効**

ダイレクトPPPoEを無効にします（初期値）。

②VPNパススルー

VPNパススルーの有効／無効を選択します。

・**有効**

VPNパススルーを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接VPN接続する場合に有効にします（初期値）。

・**無効**

VPNパススルーを無効にします。

③IPv6ブリッジ

IPv6ブリッジの有効／無効を選択します。

・**有効**

IPv6ブリッジを有効にします。本商品に接続したパソコンから外部に直接IPv6接続する場合に有効にします（初期値）。

・**無効**

VPNパススルーを無効にします。

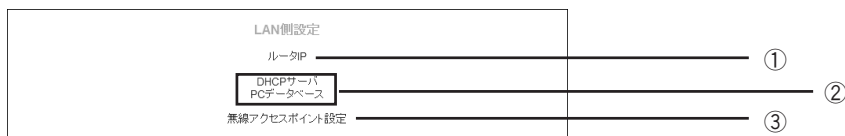
④［設定］

設定した内容を保存します。

⑤［戻る］

「WAN側設定（インターネット）」画面（P.58）に戻ります。

●LAN側設定

LAN 側の詳細な設定を行います。

①ルータIP
LAN側の設定を変更できます（P.68）。

②DHCPサーバ／PCデータベース
DHCPサーバ機能や、PCデータベースの設定を変更できます（P.69）。

③無線アクセスポイント設定
無線アクセスポイント機能の設定を変更できます（P.72）。

■ルータ IP

LAN 側の設定を変更したい場合に設定します。

①MACアドレス
本商品のLAN側のMACアドレスが表示されます。

②LAN側IPアドレス
本商品のLAN側のIPアドレスを入力します。IPアドレスの値は「０から255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。
※工場出荷時の状態は「192.168.1.1」に設定されています。

③サブネットマスク
本商品のLAN側のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0～255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。
※工場出荷時の状態は「255.255.255.0」に設定されています。

④URLホーム
設定したURLをWebブラウザのアドレス欄に入力すると、本商品の設定画面のトップページを表示させることができます。
※工場出荷時の状態は「corega.home」に設定されています。

メモ
・アドレスには「.」（ドット）を組み込んで 3 ～ 24 文字以内で設定します。
・「.」（ドット）はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。

⑤[設定]
設定した内容を保存します。

⑥[取消]
[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に戻ります。

⑦[戻る]
「LAN側設定」画面（P.68）に戻ります。

■ DHCP サーバ／ PC データベース

○ DHCP サーバ

DHCP サーバの設定を変更する場合に各項目の設定をします。

①DHCPサーバ

DHCPサーバの有効／無効を選択します。

・**有効**

DHCPサーバ機能を使用します（初期値）。

・**無効**

DHCPサーバ機能を使用しません。

②リース期限継続方法

DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限継続方法を選択します。期限指定／未期限の指定ができます。

・**期限指定**

DHCPサーバから割り当てられるIPアドレスを定期的に更新します（初期値）。
期限は③「リース期限」で設定します。

・**無期限**

DCPサーバから割り当てられるIPアドレスに期限を設定しません。

③リース期限

DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限を分単位で指定します（初期値：2日）。
※②で期限指定を選択している場合に設定できます。

④DHCP開始アドレス

DHCPサーバが割り当てる最初のIPアドレスを入力します（初期値：192.168.1.21）。

⑤DHCP終了アドレス

DHCPサーバが割り当てる最後のIPアドレスを入力します（初期値：192.168.1.50）。

⑥[設定]

設定した内容を保存します。

⑦[取消]

[設定]をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態に戻ります。

⑧[戻る]

「LAN側設定」画面（P.69）に戻ります。

○ PC データベース

本商品に接続するクライアントパソコンを登録することができます。IPアドレスを自動的に取得するパソコンは自動的に登録されます。この操作はPCデータベースのリストに表示されていない場合や、IPアドレスを固定設定しているパソコンに行います。

①編集

登録済みのクライアントパソコンの設定を変更することができます。

②[追加]

「PCデータベース（詳細設定）」（P.70）を表示し、パソコンを手動でPCデータベースに追加できます。

③[再読み込み]

現在の情報を更新します。

○ PC データベース（詳細設定）

手動でPCデータベースに登録することができます。

①パソコン名

クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。

②IPアドレス

IPアドレスの取得方法を選択します。

・**自動取得（DHCPクライアント）**

パソコンがDHCPクライアント（Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品は「DHCPサーバ」画面（前ページ）で設定した内容でパソコンにIPアドレスを割り当てます（初期値）。IPアドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合や、長時間ネットワークから切断していたあとで再接続した場合に変わることがあります。

・**固定取得（DHCPクライアント）**

パソコンがDHCPクライアント（Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」）に設定されている場合に、本商品は「DHCPサーバ」画面（前ページ）で設定した内容でパソコンにIPアドレスを割り当てます。パソコンに毎回決まったIPアドレスを割り当てたい場合に選択します。最後の空欄に、本商品のDHCPサーバ機能で設定した範囲内で1～254の任意の数字を入力します。

・**固定設定（DHCP範囲以外）**

パソコンが固定IPアドレスを使用している場合に選択します。パソコンに設定しているIPアドレスを入力します。

・**接続タイプ**

本商品とパソコンの接続方法を選択します。有線で接続しているパソコンは「LAN」を、無線で接続しているパソコンは「WLAN」を選択します。

③MACアドレス

MACアドレスの登録方法を選択します。

・自動検索（パソコンが接続されている状態）

①「パソコン名」と②「IPアドレス」の設定から登録したいパソコンのMACアドレスを自動取得します。本商品にパソコンを接続している状態で自動検索できます。自動検索が完了すると、MACアドレス欄に検索されたMACアドレスが表示されます。

・MACアドレス

登録したいパソコンのMACアドレスがわかる場合に直接入力します。本商品にパソコンを接続していない状態でも登録することができます。

MACアドレスは「ハードウェアアドレス」や、「物理アドレス」または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることがあります。本商品はパソコンを識別するためにMACアドレスを使用します。入力欄を空白にしたままでは登録することはできません。

④[PCデータ追加]

本商品のリストに新しいパソコンを加えます。

⑤[データの削除]

画面上で入力した値をクリアすることができます。

⑥[戻る]

「DHCPサーバ／PCデータベース」画面(P.69)に戻ります。

■無線アクセスポイント設定

無線 LAN のネットワーク名（SSID）や、セキュリティなどの詳細な設定を行います。

本商品の無線アクセスポイント機能が無効の場合は表示されません。

①Wi-Fi Protected Setup
Wi-Fi Protected Setupの設定を行います(P.72)。

②802.11g/b設定
無線LAN通信の設定を行います(P.73)。

③802.11g/bセキュリティ設定
無線LAN通信のセキュリティ設定を行います(P.75)。

④アクセス制限
無線LANアダプタ(パソコン)による無線アクセスの可否の設定を行います(P.77)。

⑤マルチAP設定
セカンドSSIDのセキュリティ設定を行います(P.78)。

○ Wi-Fi Protected Setup

無線機器間の無線セキュリティを簡単に設定できる Wi-Fi Protected Setup の設定を表示します。Wi-Fi Protected Setupは対応機種のみ使用できます。通常は設定画面で設定を変更する必要はありません。Wi-Fi Protected Setup で無線セキュリティを設定する場合は、付属の「お使いの手引き」または Wi-Fi Protected Setup 対応機種に付属の「無線クライアントユーティリティ　詳細設定ガイド」をご覧ください。

Wi-Fi Protected Setup に対応する無線 LAN アダプタに関する最新情報は、コレガホームページ（http://corega.jp/）をご覧ください。

・Wi-Fi Protected Setup有効時

・Wi-Fi Protected Setup無効時

○ 802.11g/b 設定

IEEE802.11g/b 通信の設定を行います。

①ネットワーク名(SSID)

無線LANに接続する機器を識別するネットワークグループ名です。接続するすべてのパソコン(無線LANアダプタ)に同じ名前を設定します。

※工場出荷時のSSIDは本商品左側面の「ネットワーク名(SSID/MAC)」に記載されています。

②モード

802.11の動作モードを設定できます。

・**自動設定**

802.11g、802.11bをお使いの環境に合わせて自動で設定します(初期値)。

・**802.11g/b**

802.11g または802.11bを使用できます。

・**802.11g**

802.11gのみを使用できます。

・**802.11b**

802.11bのみを使用できます。

③チャンネル

使用する電波の周波数(無線チャンネル)を「自動設定、1～13チャンネル」で選択できます。

・**自動設定(初期値)**

空きチャンネル自動検索機能で最適なチャンネルを自動で設定します。

・**1～13**

チャンネルを指定・固定したい場合に1～13チャンネルのいずれかを選択します。

通常は「自動選択」から変更する必要はありません。

④ダブルチャンネル

お使いの環境で使用出来る無線LAN通信を自動で設定するか、20MHzで固定するかを選択できます。

・**自動設定**

お使いの無線LAN通信環境が40MHz幅のダブルチャンネルに対応している場合は、自動的に40MHzに設定されます。チャンネルは、③の「チャンネル」で設定すると自動でもう一つのチャンネルが設定されます。設定された値は、「拡張チャンネル」に表示されます。③の設定が「自動設定」のときは拡張チャンネルも「自動」と表示されます。

・**20MHz固定**

無線LAN通信周波数帯域を20MHzで固定します。通常は「自動設定」から変更する必要はありません。

⑤転送レート

転送レート（無線LAN通信速度）を、②「モード」が802.11gまたは802.11bのときのみ、「1～54Mbps」で変更できます（初期値：自動設定）。
※通常は「自動設定」から変更する必要はありません。

⑥IPv6マルチキャスト通信

IPv6マルチキャスト通信の有効／無効を設定できます。

- **有効**
  IPv6マルチキャスト通信サービス（4thメディアなど）を使用する場合に選択します。
- **無効**
  IPv6マルチキャスト通信を使用しません（初期値）。

⑦ステルスAP

無線LANアダプタを持つパソコンから本商品のSSIDを検索されないようにしたり、SSIDを「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

- **有効**
  ステルスAPを有効にします。
- **無効**
  ステルスAPを無効にします（初期値）。

⑧WMM（Wireless Qos）

WMM（Wi-Fi Multimedia）の有効／無効を設定することができます。

- **有効**
  映像や音声のストリーミングデータの通信帯域を確保し、ストリーミングデータの受信効率を向上させます。
- **無効**
  WMMを使用しません（初期値）。

⑨電波強度

本商品の電波出力の強度を「最大」（初期値）、「50%」、「25%」、「12.5%」、「最小」から選択できます。
※通常は変更する必要はありません。

⑩ビーコン間隔

アクセスポイントが常に発信する、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を「20～1000」で設定できます（初期値：100）。
※通常は変更する必要はありません。

⑪RTSしきい値

無線LANのパケットを送信する前に送信するRTS（送信要求）パケットのしきい値を「256～2346」で設定できます（初期値：2346）。
※通常は変更する必要はありません。

⑫パケット分割のしきい値

無線LANのパケットを分割するしきい値を「256～2346」で設定できます（初期値：2346）。
※通常は変更する必要はありません。

⑬[設定]

変更した内容に変更します。

⑭[取消]

設定を変更せずに取り消します。

⑮[戻る]

「無線アクセスポイント設定」画面（P.72）に戻ります。

○ 802.11g/b セキュリティ設定

802.11g/b 通信のセキュリティの設定を行います。

①認証方式

無線セキュリティの認証方式を選択します。

・Open System
無線セキュリティを使用しない、またはWEPを使用する場合に選択します。

・Shared Key
WEPを使用する場合に選択します。

・WPA/WPA2-PSK
WPA2-PSKまたはWPA-PSKを使用する場合に選択します(初期値)。

・WPA2-PSK
WPA2-PSKのみを使用する場合に選択します。

・WPA-PSK
WPA-PSKのみを使用する場合に選択します。

②暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。①「認証方式」によって、選択できる暗号方式が変わります。

・無効
Open Systemを使用する場合に選択できます。
無線セキュリティを使用しません。

・WEP
Open SystemまたはShared Keyを使用する場合に選択できます。
暗号化にWEPを使用します。

・自動(AES/TKIP)
WPA/WPA2-PSK、WPA2-PSK、WPA-PSKを使用する場合に選択できます。
暗号化にAESまたはTKIPを使用します(初期値)。

・AES
WPA/WPA2-PSK、WPA2-PSK、WPA-PSKを使用する場合に選択できます。
暗号化にAESを使用します。

・TKIP
WPA/WPA2-PSK、WPA2-PSK、WPA-PSKを使用する場合に選択できます。
暗号化にTKIPを使用します。
※AES＞TKIP＞WEPの順番で暗号の解読が困難になります。

③暗号化

WEPを選択した場合に、暗号強度を64Bit、128Bitの16進数またはASCII文字列から選択します。

④WEPキー

暗号化の選択後、WEPキー(暗号化)を入力し、「キー1～4」から1つを選択します。「キー1～4」のそれぞれに、設定する暗号キーを直接入力します。

⑤WPA共有キー

WPA/WPA2-PSKとWPA2-PSKを選択した場合に、初回アクセス時に使用する任意のキーを「ASCII文字(8～63文字」(初期値)または「16進数(64文字)」で入力します。

※工場出荷時のSSIDは本商品左側面の「ネットワーク名(SSID/MAC)」に記載されています。

⑥DTIM

DTIM(配信トラフィック・インディケータ・メッセージ)の通信間隔の値を「1～5」の間で設定します(初期値:1)。

⑦プリアンブルモード

プリアンブルモードを「自動」(初期値)、「短いプリアンブル」、「長いプリアンブル」から設定できます。

※通常は変更する必要はありません。

⑧更新間隔

WPA共有キーの更新間隔を「0※、300～1800秒」で設定します(初期値:300)。

※更新間隔を0にした場合は、WPA共有キーを更新しません。

⑨[設定]

変更した内容に設定します。

⑩[取消]

設定を変更せずに取り消します。

⑪[戻る]

「無線アクセスポイント設定」画面(P.72)に戻ります。

⑫[セキュリティ情報書出し]

現在のセキュリティ設定をテキストで表示します。

○アクセス制限

接続を許可する無線クライアントの設定などを行います。

①無線端末間通信

無線端末（パソコンなどのクライアント）同士の通信の制限を設定できます。

・有効

無線端末の通信を有効にします（初期値）。

・無効

無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の無線端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。

②無線－有線間端末通信

有線端末と無線端末間の通信の制限を設定できます。

・有効

有線端末と無線端末間の通信を有効にします（初期値）。

・無効

有線端末と無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の無線端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。

③MACアドレスフィルタリング

MACアドレスを登録した無線端末のみ通信を許可します。

④MACアドレス

通信を許可したいMACアドレスを手動でリストに登録することができます。

⑤リスト

PCデータベースに登録されたクライアントの中から無線端末を表示します。
リストでチェックを付けたクライアントのみ通信を許可します。

⑥[設定]

変更した内容に設定します。

⑦[取消]

設定を変更せず取り消します。

⑧[戻る]

「無線アクセスポイント設定」画面（P.72）に戻ります。

○マルチ AP 設定

背面の「マルチ AP 機能スイッチ」をオンにして有効になったセカンド SSID を設定することができます。

①マルチAP機能

マルチAP機能の状態を表示します。

マルチAP機能のON/OFFは背面の「マルチAP機能スイッチ」で操作します。

②ネットワーク名(SSID)

セカンドSSIDのネットワーク名が表示されます。

工場出荷時の状態のSSIDは「CG-Guest」です。

③ステルスAP

無線LANアダプタを持つパソコンから本商品のSSIDを検索されないようにしたり、SSIDを「ANY」や空白にしているパソコンからのアクセスを拒否したりできます。

・**有効**

ステルスAPを有効にします。

・**無効**

ステルスAPを無効にします(初期値)。

④暗号方式

無線セキュリティの暗号方式を設定します。①「認証方式」によって、選択できる暗号方式が変わります。

・**無効**

OpenSystemを使用する場合に選択できます。

無線セキュリティを使用しません(初期値)。

・**WEP**

OpenSystemまたはShared keyを使用する場合に選択できます。

暗号化にWEPを使用します。

⑤暗号化

暗号強度を64Bit、128Bitの16進数またはASCII文字列から選択します。

⑥WEPキー

暗号化の選択後、WEPキー(暗号キー)を入力し、「キー1」に設定する暗号キーを直接入力します。

⑦[設定]

変更した内容に設定します。

⑧[取消]

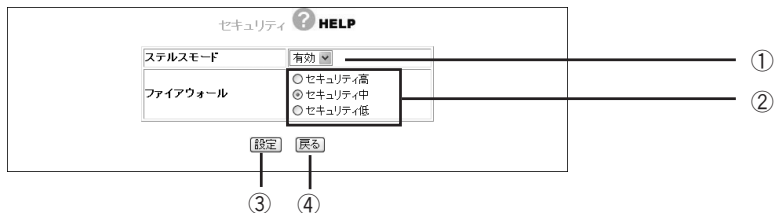
設定を変更せずに取り消します。

⑨[戻る]

「無線アクセスポイント設定」画面(P.72)の戻ります。

●セキュリティ設定

WAN 側からのアクセスに対するセキュリティ設定ができます。

本商品のルータ機能が無効の場合は表示されません。

①ステルスモード

WAN(インターネット)側へのPINGリクエスト(通信確認リクエスト)の応答を設定できます。

・有効

WAN側からのPINGに応答しなくなり、本商品の存在を隠すことができます(初期値)。

・無効

WAN側からのPINGに対応し、本商品の存在を確認できます。お互いの存在を確認しながらインターネット接続を行う場合にはこちらを選択します。

②ファイアウォール

ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度が遅くなる場合があります。

③[設定]

変更した内容に設定します。

④[戻る]

「トップページ」画面(P.56)に戻ります。

■アクセス制限
本商品に接続しているパソコンから、インターネットへのアクセスの許可または禁止を設定することができます。

①制限するIPアドレス
アクセスを制限したいIPアドレスの範囲を登録します。

②制限するサービス
アクセスを制限するサービスを一覧「WWW(ウェブブラウズ)」、「E-mail送信」、「E-mail受信」、「Secure HTTP」、「FTP」、「全てのTCPポート」、「全てのUDPポート」、「ユーザ定義」(初期値)から選択します。

③プロトコル
制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合にプロトコルを「TCP」(初期値)、「UDP」から選択します。

④制限するポート範囲
制限するサービスで「ユーザ定義」を選択した場合に任意のポートを指定できます。

⑤スケジューリング(スケジュール設定を使用します)
制限する時間を選択することができます。

- **常に制限**
  常時アクセスを制限します。
- **スケジュール**
  「スケジュール」画面(P.74)で登録した時間でアクセス制限をかけることができます。

⑥[登録]
設定した内容で登録します。

⑦アクセス制限テーブル(最大10まで)
登録されたアクセス制限を表示します。

⑧[戻る]
「セキュリティ設定」画面(P.79)に戻ります。

■コンテンツフィルタ

ネットスター株式会社が提供する有料サービス「インターネット悪質サイトブロックサービス for BB ルータ」（コンテンツフィルタ）を使用することができます。また、「URL フィルタ」機能も使用することができます。

①コンテンツフィルタ

ネットスター株式会社の「インターネット悪質サイトブロックサービス for BBルータ」を使用して、好ましくないサイトへの接続を自動的にブロックすることができます。本機能の紹介および設定方法は、付属の「コンテンツフィルタリングで安心インターネット」をご覧ください。

②URLフィルタ

「URLフィルタ」画面（P.81）を表示させることができます。

○ URL フィルタ

登録した文字列が含まれる URL へのアクセスを制限することができます。

①説明

アクセス制限の説明をつけることができます。

②制限するIPアドレス

URLフィルタの対象にするパソコンのIPアドレスを範囲指定できます。

③URLまたはキーワード

アクセスを制限したいURLやキーワードを登録します。

例：violence

④[登録]

設定した内容で登録します。

⑤URLフィルタテーブル（最大10まで）

登録されたURLフィルタを表示します。

⑥[戻る]

「セキュリティ設定」画面（P.79）に戻ります。

■スケジュール

本項目で設定した時間帯にアクセス制限を行うことができます。設定した時間帯は「アクセス制限」画面（P.80）で指定して実行してください。

①名前

スケジュールに任意の名前と付けることができます。

登録した名前が「アクセス制限」画面（P.72）のスケジューリングに表示されます。

②コメント

任意の説明文を付けることができます。

③スケジュール

ここで時間帯を設定します。24時間表記で入力します。

・曜日

制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力します。

・開始時間

制限を開始する時間を入力します。

・終了時間

制限を終了する時間を入力します。

④[登録]

設定した内容で登録します。

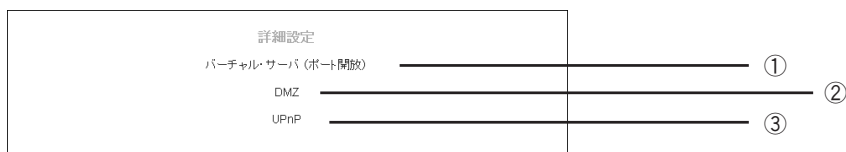
⑤スケジュールテーブル（最大10まで）

登録されたスケジュールを表示します。

⑥[戻る]

「セキュリティ設定」画面（P.79）に戻ります。

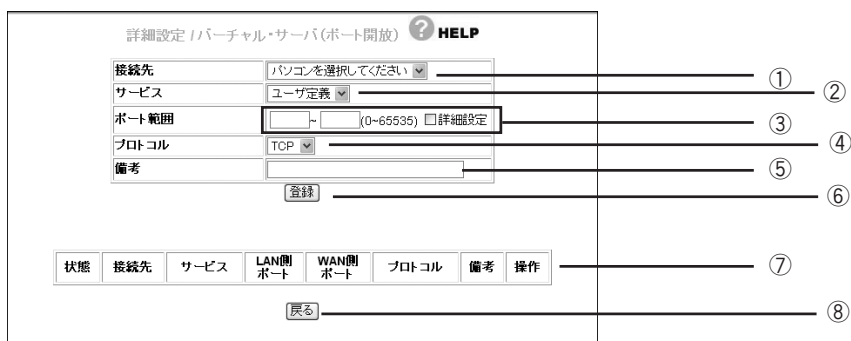
●詳細設定

本商品の詳細設定ができます。

①バーチャル・サーバ（ポート開放）
インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。

②DMZ
UPnPに対応していないソフトウェアや、開放するポートがわからない場合に設定します。

③UPnP
UPnPに対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。

■バーチャル・サーバ（ポート開放）

インターネットにサーバを開放するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。設定方法は、「ポートを開放するには」（P.17）をご覧ください。

①接続先
バーチャル・サーバ機能を使用するパソコンをリストから選択します。
PCデータベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。

②サービス
使用するサービスを選択します。

③ポート範囲
使用するポートの範囲を入力します。「詳細設定」にチェックを付けると、WAN側とLAN側のポート範囲が入力できます。

④プロトコル
使用するプロトコルを設定します。

⑤備考
説明を付けることができます。
※空欄のままでも使用できます。

⑥［登録］
設定した内容で登録します。

⑦バーチャル・サーバリスト
登録した内容を表示します。

⑧[戻る]
「詳細設定」画面(P.83)に戻ります。

・①の接続先で、サーバとなるパソコンが表示されない場合、PCデータベースでサーバとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PCデータベース」(P.69)をご覧ください。
・パソコンをサーバとして使用するには、パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
・ダイナミックDNS(DDNS)を使用することで、より簡単にWAN側からLAN側のサーバに接続することができます。

■ DMZ
インターネットにサーバを公開するなど、インターネットにポートを開放する場合に設定します。
UPnPに対応していないソフトウェアや、開放するポートがわからない場合に設定します。
「バーチャル・サーバ(ポート開放)」(P.83)を使って接続できない場合に使用します。

①DMZホスト
DMZ機能を使用するパソコンを選択します。
PCデータベースに登録されたパソコンがリストに表示されます。

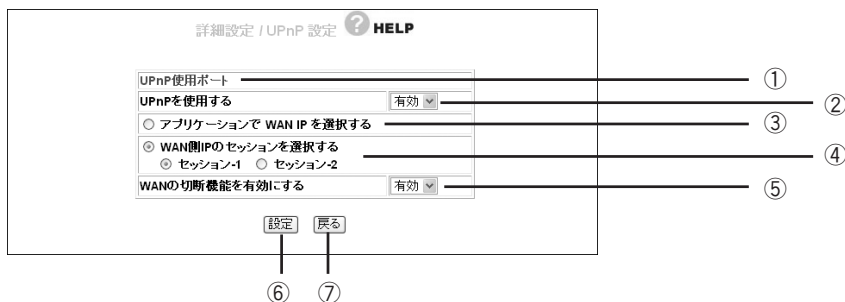
※DMZの対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。
※ダイナミックDNS(DDNS)を使用することで、より簡単にWAN側からLAN側のサーバに接続することができます。

②[設定]
選択したパソコンで設定します。

③[戻る]
「詳細設定」画面(P.83)に戻ります。

■ UPnP

UPnP に対応したソフトウェアを使用する場合に設定します。

UPnP 機能は Windows Vista/XP で使用できます。

①UPnP使用ポート

UPnPで使用しているポートを確認できます。(P.86)

②UPnPを使用する

UPnPの「有効」(初期値)、「無効」を選択します。

③アプリケーションでWAN IPを選択する

UPnP対応アプリケーションでWAN IPを選択する場合に使用します。
※PPPoEで接続設定されているときのみ表示されます。

④WAN側IPのセッションを選択する

手動でUPnPを使用するWAN IP(セッション)を選択する場合に使用します。「セッション-1」または「セッション-2」のどちらかを選択します。
※PPPoEで接続設定されているときのみ表示されます。

⑤WAN接続機能を有効にする

WAN切断機能を設定します。
※PPPoEで接続設定されているときのみ表示されます。

- **有効**
  UPnP機能を使用してWAN(インターネット側)を切断することができます。
- **無効**
  WAN切断機能を使用しません。

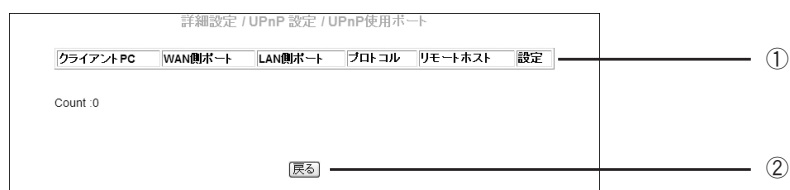
⑥[設定]

設定した内容を保存します。

⑦[戻る]

「詳細設定」画面(P.83)に戻ります。

○ UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。

①UPnPポートリスト

使用しているUPnPの内容を表示します。

②[戻る]

「UPnP」画面(P.85)に戻ります。

●管理

本商品のログイン名やパスワードなどを設定できます。

①管理者ログイン名
設定画面へのログイン名を変更します(初期値：root)。

②管理者ログイン・パスワード
設定画面へのログイン・パスワードを設定できます(初期値：空欄)。

③パスワードの確認
管理者ログイン・パスワードを変更する場合は、確認のため②で入力したパスワードを入力します。

④IPマスカレード・テーブル保持時間
IPマスカレードのテーブル保有時間を「0～300」分で設定できます(初期値：10分)。
設定時間を長くすることで、FTPサーバなどへの長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続などでは設定する必要はありません。

⑤時間設定
本商品の時間設定ができます。

・自動設定
NTPサーバを検出して自動で時刻を設定します。

・手動設定
「年／月／日」の順に設定します。

⑥工場出荷時の状態へ戻す
[実行]をクリックすると本商品に設定されている内容をすべて工場出荷時(初期値)の状態に戻します。
※実行する前に設定内容は控えておくことをお勧めします。

⑦再起動
[実行]をクリックすると本商品を再起動します。

⑧設定保存
[保存]をクリックすると現在の設定内容をファイルに保存することができます。

⑨設定読込
[読込]をクリックすると保存した設定内容を読み込みます。

⑩ファームウェア更新
「ファームウェア更新」画面(P.88)を表示します。

⑪リモート
「リモート」画面(P.89)を表示します。

⑫PINGテスト
「PINGテスト」画面(次ページ)を表示します。

本商品からPINGテストを実行する場合に表示します。

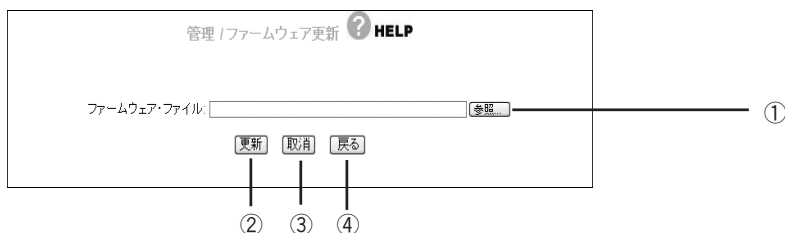
⑬[設定]
変更した内容で設定します。

⑭[取消]
設定を変更せずに取り消します。

⑮[戻る]
「トップページ」(P.56)に戻ります。

■ファームウェア更新

コレガホームページからダウンロードした最新のファームウェアを本商品に読み込ませることができます。

ファームウェアの更新は、「最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは」(P.28)の手順に従ってください。

①[参照]
ダウンロードしたファームウェアの保存先を選択します。

②[更新]
ファームウェアファイルを選択後、[更新]をクリックするとファームウェアの更新を開始します。

③[取消]
ファームウエアの更新を中断します。
※更新中は絶対に本商品の電源を切らないでください。
※更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。

④[戻る]
「管理」画面(P.87)に戻ります。

■リモート

WAN（インターネット）側から本商品の設定画面を開く場合にあらかじめ設定しておきます。

①リモート設定

リモート設定の有効／無効を選択します。

・有効

WAN側から本商品の設定ができます。

・無効

WAN側から本商品の設定はできません(初期値)。

②ポート

リモート設定を有効にした場合に。「1」〜「9600」の範囲でポート番号を入力します(初期値：8080)

③[設定]

変更した内容で設定します。

④[戻る]

「管理」画面(P.87)に戻ります。

・リモート機能で設定したポート番号が、バーチャル・サーバなどでは使用できません。

・インターネット側（WAN側）から接続する場合は、次の例にようにIPアドレスの後ろにポート番号を指定します。WAN側のIPアドレスは「ステータス」画面（P.91）で確認できます。

・ダイナミックDNS（DDNS）を使用することで、IPアドレスではなくダイナミックDNS名で接続することができます。

■PINGテスト
本商品に接続しているほかのパソコンが、通信可能な状態かどうか確認するためのテストをします。

①宛先アドレス
テストを実行するパソコンのIPアドレスを入力します。

②[実行]
①でIPアドレスを入力後、[実行]をクリックするとPINGテストを開始します。

③宛先／実行結果
PINGテストの結果が表示されます。

■Cable Test
使用しているポートのリンク速度を表示します。

①Ports（ポート）
WAN、LAN1～4それぞれの状態を確認できます。

②Link Type（リンクタイプ）
接続状態を「100Full」、「100Half」、「10Full」、「10Half」、「Disconnect」で表示します。

③[More Info]（詳細情報）
詳細情報を表示します。

④[更新]
表示内容を更新します。

●ステータス

本商品のステータスを表示します。

・IP自動取得(DHCP)の場合

①[開放]
WAN側IPアドレスを開放します。

②[再取得]
WAN側IPアドレスを再取得します。

③[更新]
表示している情報を更新します。

・PPPoEの場合

①[更新]
表示している情報を更新します。

■ログ表示

本体のログ情報を表示します。

①アタックログ
DoSアタック※が発生した際に、そのログを保存します。

※インターネットにつながっているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの1つです。

②DHCPログ
本商品のDHCPサーバ機能の稼働状況を表示します。

③システムログ
本商品のアクセス履歴などを表示します。

④無線アクセスログ
本商品の無線のみアクセス履歴などを表示します。

⑤[戻る]
「ステータス」画面(P.91)に戻ります。

MAC アドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなど直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。
本商品の WAN 側の MAC アドレスは本体左側面の製品ラベル内の「ネットワーク名（SSID/MAC）」に記載されています。LAN 側の MAC アドレスは、設定画面の「ステータス」（P.91）で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、 すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため商品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

本商品は国内使用となっており、外国の規格などには準拠しておりません日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

2007年　11月　　初版
2008年　 1月　第二版